

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2021年1月25日
【会社名】	株式会社パパネッツ
【英訳名】	PAPANETS CO.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 伊藤裕昭
【本店の所在の場所】	埼玉県越谷市越ヶ谷一丁目5番17号9階
【電話番号】	(048)960 - 5088(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 宮崎恵子
【最寄りの連絡場所】	埼玉県越谷市越ヶ谷一丁目5番17号9階
【電話番号】	(048)960 - 5088(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 宮崎恵子
【届出の対象とした売出有価証券の種類】	株式
【届出の対象とした売出金額】	205,700,000円
【安定操作に関する事項】	該当事項はありません。
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

## 第一部 【証券情報】

### 第1 【募集要項】

該当事項はありません。

## 第2 【売出要項】

### 1 【売出有価証券】

#### (1) 【売出株式】

種類	売出数(株)	売出価額の総額 (円)	売出しに係る株式の所有者 の住所及び氏名又は名称
普通株式	60,500	205,700,000	埼玉県北葛飾郡 松伏町大字上赤岩1530番地-1 株式会社花明 39,900株 埼玉県北葛飾郡松伏町 中本久富 20,600株
計(総売出株式)	60,500	205,700,000	

(注) 1. 売出価格は、簿価純資産価額方式により算出した価格を参考に、1株当たり3,400円とします。

2. 当社の定める振替機関の名称及び住所は、以下のとおりであります。

名称：株式会社証券保管振替機構

住所：東京都中央区茅場町二丁目1番1号

### 2 【売出しの条件】

売出価格 (円)	申込期間	申込株数 単位 (株)	申込証拠金 (円)	申込受付場所	売出しの委託を 受けた者の住所 及び氏名又は名称	売出しの 委託契約 の内容
3,400円	自 2021年 2月12日(金) 至 2021年 2月15日(月)	100	該当なし	埼玉県越谷市越ヶ谷 1丁目5番17号9階	該当なし	該当なし

(注) 1. 株式受渡期日は、2021年2月22日(月)とします。

2. 有価証券届出書提出後、目論見書の配布を申込受付場所にて行います。また、申込期間中において、当該申込受付場所に申込書を備え置いております。

3. 申込証拠金はありません。

4. 売出しは、当社常勤取締役を対象とした相対による方法で実施します。

### 3 【募集又は売出しに関する特別記載事項】

#### 1. 東京証券取引所(TOKYO PRO Market市場)に上場されている株式の売出しについて

売出株式は、東京証券取引所(TOKYO PRO Market市場)に上場されている特定上場有価証券であり、「特定投資家向け有価証券」に該当します。そのため、当該有価証券を特定投資家等以外の者に取得させる場合は「特定投資家等取得有価証券一般勧誘」として扱われ、発行者が有価証券届出書を提出しているものでなければ取得勧誘することができないものであり、また当該有価証券届出書の提出には金額要件がないため、売出価額の総額に関係なく届出が行われる必要があります。

#### 2. 今回の売出しについて

今回の売出しは当社主要株主である株式会社花明及び中本久富から当社常勤取締役5名への当社株式の譲渡を目的としております。

### 第3 【第三者割当の場合の特記事項】

該当事項はありません。

#### 第4 【その他の記載事項】

該当事項はありません。

## 第二部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

提出会社の経営指標等

回 次	第21期	第22期	第23期	第24期	第25期
決算年月	2016年 2月	2017年 2月	2018年 2月	2019年 2月	2020年 2月
売上高 (千円)	1,503,624	2,057,137	2,296,168	2,835,351	3,643,856
経常利益 (千円)	12,376	94,381	56,297	93,041	253,659
当期純利益 (千円)	13,121	66,198	38,664	58,349	174,381
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
発行済株式総数 (株)	575	575	172,500	172,500	172,500
純資産額 (千円)	179,384	245,583	280,223	334,284	503,491
総資産額 (千円)	503,197	610,929	854,821	1,227,323	1,440,372
1株当たり純資産額 (円)	1,039.91	1,423.67	1,624.48	1,937.74	2,918.65
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	- (-)	7,000.00 (-)	25.00 (-)	30.00 (-)	50.00 (-)
1株当たり当期純利益 (円)	105.31	383.76	224.14	338.25	1,010.91
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	35.6	40.2	32.7	27.2	35.0
自己資本利益率 (%)	13.4	31.2	14.7	18.9	41.6
株価収益率 (倍)	-	-	8.9	5.9	2.0
配当性向 (%)	-	6.1	11.1	8.8	4.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	77,976	45,581	15,411	84,118	230,252
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	19,667	48,231	290,836	121,959	18,642
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	21,264	10,012	316,303	165,039	42,046
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	116,117	103,456	113,511	240,709	410,273
従業員数 (人)	55	59	63	81	96
株主総利回り (%)	-	-	-	-	-
最高株価 (円)	-	-	2,000	-	-
最低株価 (円)	-	-	2,000	-	-

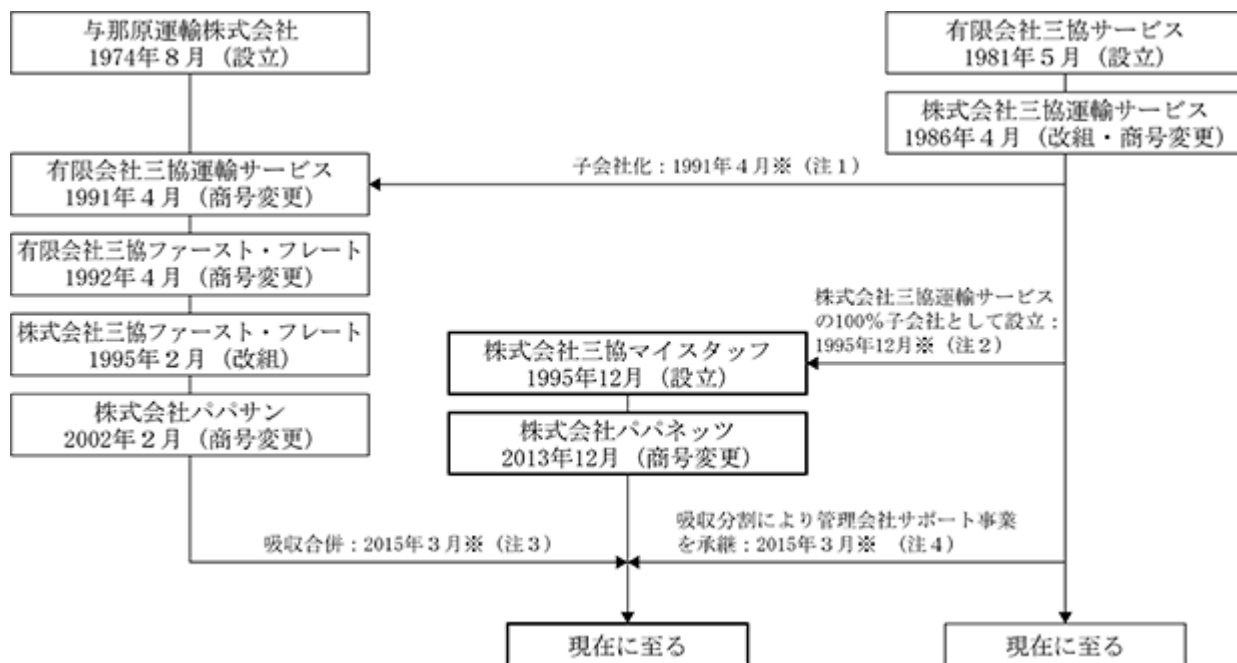
- (注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。
4. 第21期、第22期及び第23期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- また、第24期及び第25期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、新株予約権の残高はありますが、当社株式は売買実績がなく期中平均株価が把握できないため記載しておりません。
5. 第24期（2018年3月1日から2019年2月28日）及び第25期（2019年3月1日から2020年2月29日）の財務諸表については金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づきMoore至誠監査法人の監査を受けておりますが、第21期（2015年3月1日から2016年2月29日）、第22期（2016年3月1日から2017年2月28日）及び23期（2017年3月1日から2018年2月28日）の財務諸表については当該監査を受けておりません。
6. 2017年9月8日付で普通株式1株につき300株の割合で株式分割を行いました。第21期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。
7. 臨時雇用者数については、その総数が従業員数の100分の10未満のため、記載を省略しております。
8. 最高株価及び最低株価は、東京証券取引所(TOKYO PRO Market市場)におけるものであります。
- ただし、当社株式は2017年10月17日付けで東京証券取引所(TOKYO PRO Market市場)に上場したためそれ以前の株価については該当事項はありません。
9. 株主総利回りについては、当社株式は2017年10月30日に東京証券取引所(TOKYO PRO Market市場)に上場したため、記載しておりません。
10. 第24期(2018年3月1日から2019年2月28日)及び第25期(2019年3月1日から2020年2月29日)については東京証券取引所(TOKYO PRO Market市場)に上場しておりますが、株式取引の実績がなく株価の算定ができないため最高株価及び最低株価は該当事項ありません。

## 2 【沿革】

当社は1995年12月に、埼玉県入間市において、株式会社三協運輸サービス(以下、[表3]参照)の100%子会社として、同社の西関東における引越業務の拠点という位置付で、株式会社三協マイスタッフという商号で設立しました。その後、2002年10月より実質休眠状態でありましたが、新たなビジネスモデルで再出発を図ることを目的として、2013年12月に株式会社パパネッツに商号変更いたしました。さらに2014年4月より、インテリア・トータルサポート事業として、家具・インテリア商材・オフィス什器等の配送受注発注業務である、「全国ツーマン配送ネットワークサービス」を開始いたしました。また、2015年3月に株式会社三協運輸サービスより管理会社サポート事業を吸収分割により承継し、同子会社である株式会社パパサン(以下、[表2]参照)を当社が存続会社とする合併により、「インテリアコーディネートサービス」「カーテン・ブラインドメンテナンスサービス」「インテリア素材調達サービス」の業務を取り込みました。

(以下、[表1]参照)

当社の現在に至るまでの沿革を図示いたしますと、次のようになります。



(注1) 1991年4月 有限会社三協運輸サービスに商号変更し株式会社三協運輸サービスの子会社化

(注2) 1995年12月 当社の前身である株式会社マイスタッフを株式会社三協運輸サービスの100%子会社として設立

(注3) 2015年3月 株式会社パパサンを吸収合併

(注4) 2015年3月 管理会社サポート事業を株式会社三協運輸サービスより吸収分割により事業承継

2016年6月 株式会社パパネッツの普通株式400株(株式分割前)を株式会社花明が株式会社三協運輸サービスより取得したことにより株式会社三協運輸サービスの子会社を解消



[ 表 1 ] 当社の沿革

年 月	事 項
1995年12月	埼玉県入間市に引越業務の拠点として株式会社三協マイスタッフを資本金15,000千円で設立
2002年10月	業務休眠(2002年10月1日～2014年3月31日)
2009年8月	本社を埼玉県入間市から埼玉県越谷市東大沢に移転
2013年12月	株式会社パパネッツに商号変更
2014年4月	インテリア・トータルサポート事業における「全国ツーマン配送ネットワークサービス」に係るパパネット受注センターを埼玉県越谷市花田に開設
2015年3月	株式会社三協運輸サービスから吸収分割により、管理会社サポート事業を承継 これにより首都圏本部を埼玉県越谷市東大沢、西日本支店を大阪府吹田市に開設
2015年3月	株式会社パパサンを吸収合併。これにより、レンタル布団業務を管理会社サポート事業へ吸収、 「インテリアコーディネートサービス」「カーテン・ブラインドメンテナンスサービス」「インテリア素材調達サービス」をインテリア・トータルサポート事業へ吸収
2015年3月	東京営業所を東京都中央区に開設
2016年1月	資本金を50,000千円に増資
2016年10月	東京営業所を東京都江東区に移転
2016年11月	福岡営業所を福岡県福岡市博多区麦野に開設
2017年3月	西日本支店を大阪府豊中市に移転
2017年5月	本社を埼玉県越谷市東大沢から埼玉県越谷市越ヶ谷に移転
2017年5月	パパネット受注センターを埼玉県越谷市東大沢に移転
2017年5月	備品管理センターを埼玉県吉川市に開設
2017年10月	東京証券取引所 TOKYO PRO Marketへ上場
2017年11月	福岡営業所を福岡県福岡市博多区半道橋に移転
2018年1月	インテリアファブリック管理センターを東京都江戸川区に開設
2018年2月	首都圏本部とパパネット受注センターを埼玉県越谷市越ヶ谷に移転
2018年5月	名古屋営業所を愛知県あま市に開設
2020年3月	東京営業所・インテリアファブリック管理センターを東京都江東区に統合移転

[ 表 2 ] 株式会社パパサン 吸収合併消滅会社の沿革

年 月	事 項
1974年 8月	与那原運輸有限会社を神奈川県厚木市に設立(資本金2,700千円)
1991年 4月	有限会社三協運輸サービスに商号変更 株式会社三協運輸サービスの子会社化
1992年10月	有限会社三協ファースト・フレートに商号変更
1995年 2月	株式会社三協ファースト・フレートに改組
2001年12月	本社を埼玉県越谷市東大沢に移転
2002年 2月	株式会社パパサンに商号変更
2002年 8月	東京都中央区に東京営業所を開設し引越のサポート業務を開始
2003年 3月	インテリア業務を開始
2006年 8月	レンタル布団業務を開始
2015年 3月	株式会社パパネッツへ吸収合併

[ 表 3 ] 株式会社三協運輸サービスの沿革

年 月	事 項
1981年 5月	引越業務を目的として有限会社三協サービスを埼玉県草加市に設立(資本金1,500千円)
1981年 9月	自動車運送業取扱業者として東京陸運局に登録
1985年11月	一般区域貨物自動車運送業免許を取得
1986年 3月	本社を埼玉県越谷市宮前に移転
1986年 4月	株式会社三協運輸サービスに改組し商号変更
1991年 4月	有限会社三協運輸サービスを子会社化
1995年 3月	ツーマン配送による家具共同配送事業を開始
1996年 9月	本社を埼玉県越谷市東大沢に移転
2001年 9月	管理会社サポート事業の前身のマンスリーマンションサポートサービスを開始
2015年 3月	吸収分割の手続により、管理会社サポート事業を株式会社パパネッツへ承継
2017年 5月	本社を埼玉県越谷市花田に移転

### 3 【事業の内容】

当社は不動産管理会社及びマンション運営会社、並びにハウスメーカー及び不動産流通会社等取引先のサポート業務として管理会社サポート事業とインテリア・トータルサポート事業を大都市圏中心に展開しております。

管理会社サポート事業として、取引先のマンション、アパート、ビル並びにコンテナといった管理物件について当社と契約している事業者にも業務を委託し、巡回による点検等を行っております。

インテリア・トータルサポート事業として、二人体制で大型商材の運送、開梱、組み立て、設置までを独自の配送ネットワークを用い展開している他に、インテリアコーディネートサービス等を行っております。

当社では取引先管理物件の巡回による点検を通して取引先からの要望を汲み取り、サービスに展開することを「御用聴き」と称しております。「御用聴きカンパニー」である当社の事業区分、事業内容は、以下の通りであります。

#### (1) 管理会社サポート事業

##### 建物定期巡回サービス

不動産管理会社が管理を行っている建物に対して、定期巡回点検、共用部日常清掃を行い、不動産管理会社に対して報告書の作成を行っております。

当社の不動産巡回点検報告書システムである『じゅん君』をインストールした携帯情報端末を活用することで、点検対象物の写真や清掃前清掃後の写真掲載した巡回報告書を、スピーディーに作成し、不動産管理会社等でWebを通じて適時閲覧することができます。

さらに、システムの特徴を活かし、当社の拠点が無い地域でも業務を受託することが可能であり、全国の建物を対象としております

#### ◆じゅん君 巡回・点検管理業務サポートシステム



◆物件管理のために当社が独自開発した『じゅん君』は、巡回・点検業務支援システム。弊社スタッフはタブレットに表示されるチェック項目に沿って点検を行い、必要なポイントでは写真を撮影して記録します。環球など消耗品の型番および数量や交換場所も表示されるため、あらゆる情報の一括管理が可能となります。



##### レンタルコンテナ点検サービス

レンタルコンテナ・トランクルームの定期巡回清掃を行い、報告書を作成しレンタルコンテナ・トランクルーム運営会社に対して報告書の作成を行っております。また、定期巡回清掃に加え、コンテナ及びトランクの専有部において不具合があった場合の補修等も受託しております。建物定期巡回サービス同様に『じゅん君』を活用し、レンタルコンテナ・トランクルーム運営会社に対して報告を行っております。



##### マンションサポートサービス

マンションなどの定期利用賃貸入居者に対して布団の販売及びレンタルを行っております。一時利用が多いと目される主要都市（札幌から那覇まで）で提供し、レンタルの布団の利用が終了した場合は個別に回収し、クリーニングを行った後、新たにレンタルを行っております。



また、マンションに加え、家具付き賃貸新規物件の運営会社に対して、家具家電等の販売又はレンタル及び設置、入居者の退去後の清掃業務、家具家電等の備品の清掃及び一時保管を含め、マンション及び家具付き賃貸物件などの定期利用賃貸物件の運営会社の手間を削減できるサービスを提供しております。



## (2) インテリア・トータルサポート事業

### 全国ツーマン配送ネットワークサービス

家具・インテリア商材・オフィス什器等の大型品を二人体制で配送し、開梱・組み立て・設置までを行う全国配送ネットワーク(以下、「パパネット」という。)を構築し活用することで、ハウスメーカーから新築の戸建・マンションと併せて販売するインテリアの配送依頼を受けております。

従来は、新築住宅等の購入に合わせ、新しい家具を複数購入した場合、家具の種類やメーカーの数ごとに搬入が繰り返し行われ、その度に立会を行うなどの手間が発生しておりました。しかしながら、これらの家具を一旦一カ所に集めたうえで、一括配送することで複数の立会等の手間を省くことが可能となっております。このようなサービスをパパネットに加盟した全国の物流会社との協力により、全国でのツーマン配送を実現しております。

### インテリアコーディネートサービス

ハウスメーカーや不動産流通会社に対して、新築物件、中古物件・賃貸物件の御客様内覧用の空間づくり(ホームステージング)を行うにあたり、インテリア用品の販売及びレンタルを行っております。

### カーテン・ブラインドメンテナンスサービス

ハウスメーカーが既に販売された住宅等のオーナーからの依頼により、当社がカーテンレールのメンテナンスや、ブラインドの取替作業なども行っております。

### インテリア素材調達サービス

国産木材を中心に素材を原木から調達し、インテリアメーカーに対して製材し販売を行っております。

## (3) その他

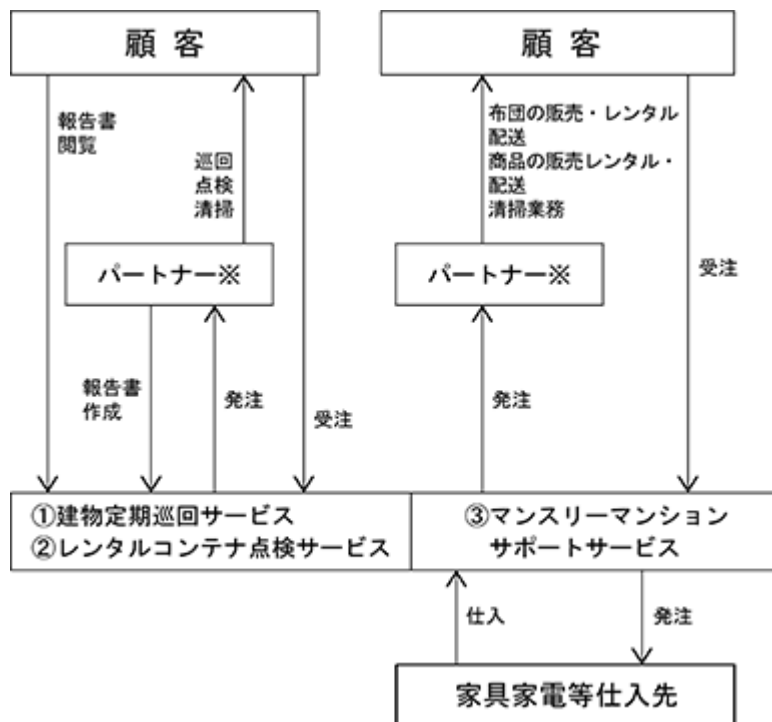
不動産の賃貸及びレンタルコンテナを行っております。



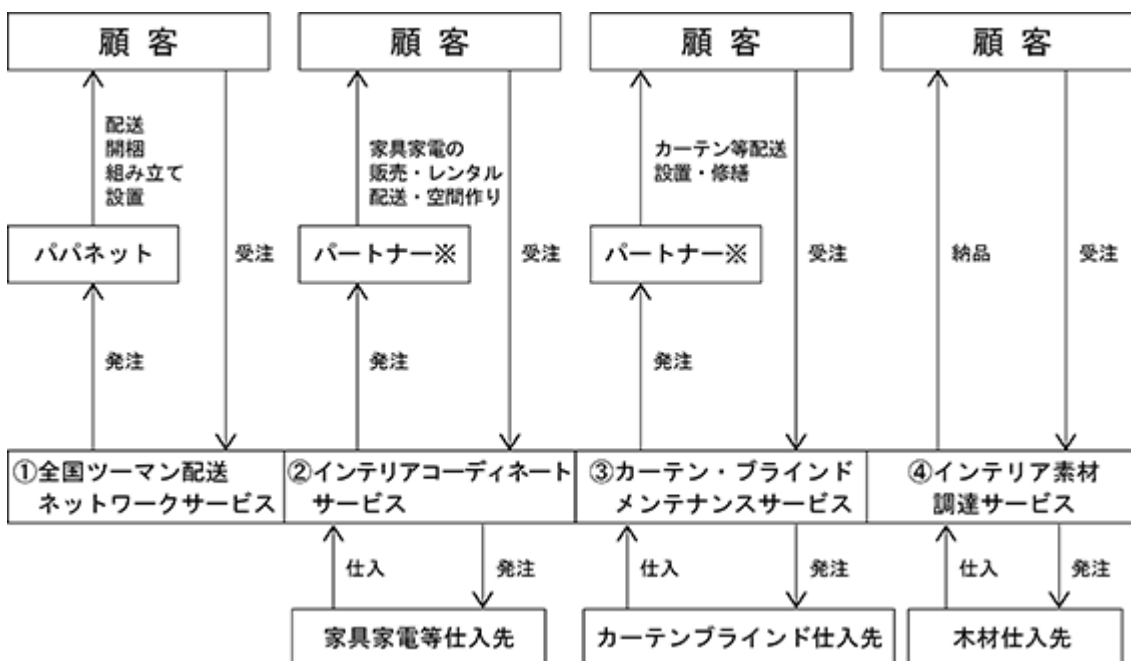
## [事業系統図]

以上の説明を事業系統図によって示すと次のようになります。

## 管理会社サポート事業



## インテリア・トータルサポート事業



当社の業務委託先である個人事業主等

## 4 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

## 5 【従業員の状況】

## (1) 提出会社の状況

2020年12月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
98	44.7	3.3	4,303

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、その総数が従業員数の100分の10未満のため、記載を省略しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 当社は御用聴き事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

## (2) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

本文中の将来に関する事項は、届出書提出日現在において当社が判断したものであります。

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社は、「我々は御客様第一であり、企業の繁栄は御客様を増やす以外にないのである。

常なるサービスは御客様の為であり、御客様の要望を満足させるべく会社を変化発展させる事こそ我が社の唯一の道である。」という企業理念のもと、不動産管理会社及びマンスリーマンション運営会社並びにハウスメーカー等の顧客から汲み取った要望を全社で共有し、解決に向け対処することによりサービスを拡充し、企業価値の向上を目指しております。

#### (2) 経営環境

今後の我が国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大抑制のため、業種を問わず営業活動等制限を余儀なくされ、景気的大幅悪化が想定外に進む可能性があり、状況によっては、世界的な景気後退懸念が高まる恐れがあります。

その様な環境下、管理会社サポート事業につきましては、対象建物の高経年化が進み、建物の資産価値の維持が求められております。当社が巡回による点検等行っている賃貸物件は、2019年2月期18,364棟、2020年2月期19,931棟と増加しております。総務省統計局による「平成30年住宅土地統計調査」において、全国賃貸物件総棟数は23,022,700棟との結果が出ており、当社にとって十分な事業機会と捉えております。

インテリア・トータルサポート事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、新設住宅着工件数並びにマンションの販売戸数は減少傾向に転じております。当社は搬入の立会の手間を省くことを可能とする一括配送により、他社と差別化を図ってまいります。

#### (3) 経営戦略等

当社は設立以来、不動産管理会社及びマンスリーマンション運営会社、並びにハウスメーカー及び不動産流通会社等法人顧客に対するサポート業務を展開しております。今後もこの業務を主たる事業として推進し、収益基盤を充実させ、売上高、営業利益の拡大を図って参ります。

#### (4) 対処すべき課題

当社は「顧客の要望に応え続ける」ことが企業の継続・発展に不可欠であると、認識しております。今後も、顧客の要望に応え続けるべく、新規商品・サービスの開発を継続してまいります。そのために、課題として以下の重点事項に対処してまいります。

##### 人財確保・人財育成

当社の活動する業界は、労働集約産業でもあることから人財(注1)の確保及び人財育成は最重要課題であると認識しております。そのために当社では、新規採用及び人財の共育(注2)に独自のカリキュラムを用いて積極的に行っております。また、今後の国内労働人口減に対応すべく国内はもとより海外も視野に入れた採用活動に力を入れてまいります。また、当社と業務委託契約を締結する事業主等(以下「パートナー」という。)との提携も引き続き進めてまいります。

(注1) 当社では人材こそが最大の経営資源であるという考えから、人材を人財と表しております。

(注2) 当社では教育を「教えて育つのではなく、共に育つ」との考えから共育と表しております。

##### 営業拠点の拡大

当社の既存顧客は広域に事業展開をされている企業が多く、また、今後新規契約のターゲットとなるであろう企業もまた、全国各地で事業を展開しております。そのため、当社は新規契約獲得のため営業拠点の充実、拡大が必要と考えております。特に西日本と比べ東日本での営業拠点が少ないことを考慮し「パパネット」の強化、当社のパートナー並びに自社による営業拠点の拡大を図ってまいります。

#### 事業資金の安定確保

当社は、更なる事業拡大及び安定経営を見据え、資金調達手段の多様化を計画的に行うことで、中期・長期に安定した成長のための財務体質の強化に努めてまいります。

#### 既存サービスの改良

当社は、主に不動産管理会社及びマンション運営会社、並びにハウスメーカー及び不動産流通会社のサポートを、全国のパートナー及びパパネットを通じて事業展開しております。当社は顧客から汲み取った要望を全社で共有し解決に向け対処することにより既存のサービスを改良したサービスの開発、提供することにより企業価値の向上を目指しております。



## 2 【事業等のリスク】

以下において、当社の事業展開その他に関してリスク要因と考えられる主な事項を記載しております。

当社は、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の適切な対応に努める方針ですが、当社株式に関する投資判断は、以下の事項及び本項以外の記載事項を慎重に検討した上で行う必要があると考えております。

また、文中の将来に関する事項は、届出書提出日現在において当社が判断したものであり、実際の結果とは異なる可能性があります。

### (1) 市場環境について

当社は今後も、管理会社サポート事業及びインテリア・トータルサポート事業の受注営業及び新サービス開発に積極的に取り組んでまいりますが、労働人口の減少により十分な人財の確保ができない場合や、各顧客が当社のような外部に業務委託するのではなく、自社での内製化方針等の動向によっては、当社の予想に反して受注営業及び新サービス開発が十分に拡大せず、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。また、当社の予想通り受注営業及び新サービスの開発が拡大した場合でも、競争激化に伴う受注価格の低下等の内容によっては、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

### (2) 許認可登録について

当社の管理会社サポート事業及びインテリア・トータルサポート事業において、当社の顧客から業務を受注し、当社のパートナー又はパパネットに発注を行うにあたり、「貨物利用運送事業法」により国土交通大臣の貨物利用運送事業許可証が必要となっております。また、インテリア・トータルサポート事業において、賃貸マンション等における退去時の原状回復工事を一部受けていることから、「建設業法」に基づく一般建設業の許可を受けて業務を行っております。これら規制の改廃、新たな法的規制が今後生じた場合当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。また、当社の事業活動の継続には下記許認可が前提となります。現在、当該許認可が取消される事由は発生しておりませんが、将来何らかの理由により、当該許認可が取消され又は更新が認められない場合には当社の事業活動に重大な影響を及ぼす可能性があります。

許認可登録名	番号	有効期限	取消条項
第一種貨物利用運送事業の登録	関自貨第94号	無期限	貨物利用運送事業法第60条
建設業の許可	埼玉県知事 (般 - 27)第69178号	自2020年12月11日 至2025年12月10日	建設業法第8条17条

### (3) 知的財産について

当社は、管理会社サポート事業及びインテリア・トータルサポート事業に関連した知的財産を保有しております。また、他社の知的財産権を侵害しないために、新サービスを企画する際に弁理士を通じ調査を実施しております。しかしながら、万一、第三者から知的財産権への抵触を理由に差止訴訟、損害賠償請求等を提起された場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

### (4) 小規模組織であることについて

当社の組織体制は小規模であり、内部管理体制もそれに準じたものとなっております。今後の事業の成長とともに人員増強及び人材育成を図り、内部管理体制の一層の強化に努める方針であります。しかしながら、内部管理体制強化のための施策が十分に執行できず、内部統制管理に重大な不備が発生した場合や財務報告に係る内部統制システムが有効に機能しなかった場合には、当社の事業、業績及び財務報告の信頼性に影響を及ぼす可能性があります。

### (5) 人材確保、育成について

当社では、人材を重要な経営資源として捉えており、事業の継続発展に向け人材確保及び社員の共育が不可欠と考えております。そのため、当社は事業計画に合わせて優秀な人材の採用及び社員の共育を行っていく方針ですが、当社の求める人材を計画に合せて確保できない場合、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

## (6) パートナーについて

当社では、管理会社サポート事業及びインテリア・トータルサポート事業の両事業において、受注した業務を、業務委託契約を締結している事業主等(以下、パートナーという。)に依頼しております。従いまして、パートナーの確保・育成が、ビジネス展開の重要な要素となっております。今後、パートナーの確保・育成が計画通りに進まない場合は、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

## (7) パパネットについて

当社では、家具・インテリア商材・オフィス什器等の大型品を二人体制で配送し、開梱・組み立て・設置までを行う全国配送ネットワークである「パパネット」を展開しております。展開各地域のパパネット加盟の物流会社に商品の梱包、発送等に関する業務、顧客への商品受け渡し、商品代金回収業務等の物流業務を委託しています。当社ではパパネット加盟企業と緊密に連携し、サービス水準の把握と向上を図っており、また、パパネットとの契約に基づき、直接的な損害はパパネット加盟企業に賠償請求できます。しかし、サービス水準の低下等が発生し、当社に対する顧客の信用低下が発生した場合等においては、当社への損害賠償請求や当社の信用低下等によって、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

## (8) 株式会社三協運輸サービスとの関係について

当社は、株式会社三協運輸サービス(以下、「同社」という。)の100%子会社として設立しましたが、第三者割当増資及び株式の移動を経て現在の株主構成となっております。

当社と同社との間では、建物巡回サービス等のパートナーであり、全国ツーマン配送ネットワークサービスにおけるパパネットの業務委託先としての取引もあります。両サービス共に関東圏については同社に業務を委託している関係上、2020年2月期における業務委託費に占める同社の割合は23.8%と相対的に高いものとなっております。なお、同社との取引に係る支払条件につきましては、第三者と比較して同等の条件であります。

当社は同社との間で良好な関係を維持しており、安定的に委託が行えるような体制となっておりますが、何らかの理由により、同社における経営戦略の変更、収益の悪化等が発生した場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

## (9) 自然災害等について

大規模な地震や台風等の自然災害が発生した場合、被災した当社含め、パートナーの被災状況、被災した顧客の支援活動等により多額の費用が発生する可能性があります。また、道路等の社会インフラの大規模損壊により、各サービスに影響が生じ、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

## (10) 個人情報管理について

当社のインテリア・トータルサポート事業において、ハウスメーカーから受注した家具の一括配送の受発注データには個人情報が含まれていることから、当社は「個人情報の保護に関する法律」の適用を受けております。これらの個人情報について適切な情報管理体制を構築するために、当社において情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)認証を取得しておりますが、何らかの理由でこれらの個人情報が外部に流出したり、悪用されるといった事態が発生した場合には、当社の評価やイメージに影響を及ぼし、その結果として当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

## (11) システムに関するリスクについて

当社では各サービスにおいて情報管理をシステム化しております。ウイルス対策やバックアップ機能等対策を講じておりますが、万一、自然災害の他コンピューターウイルスやハッキング等によりシステムの長時間停止を余儀なくされた場合、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

## (12) 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大による経済的影響について

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大に伴い、当社においても感染予防、拡大防止の措置として地域行政の指針・ガイドラインに沿った対応に努めております。また、手元流動性確保のため財務施策を行い事業の継続に甚大な影響を及ぼすリスクを最小化する施策を行っております。しかし、国内外において終息に向かわず、拡大が長期化した場合、経済的に重大な影響が生じることが想定されます。今後事態が長期化、深刻化した場合当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

## (13) 担当J-Adviser との契約について

TOKYO PRO Market市場においては、当社(以下、「甲」という)が上場適格性を維持しているかどうかの確認を担当J-AdviserがJ-Adviser業務として実施します。当社は、担当J-Adviserであるフィリップ証券株式会社(以下、「乙」という。)との間でJ-Adviser契約(以下、「本契約」という。)を締結していますが、本契約がその定めにより解除又は解約され、別のJ-Adviserとの間で新たにJ-Adviser契約を締結できなかった場合には、当社は上場廃止となります。

まず、甲及び乙は、相手方に対して1ヶ月以上前に書面でその旨を通知することにより、本契約を解約することができます。また、甲又は乙が、本契約に基づく義務の履行を怠り、又は、その他本契約違反を犯した場合、その相手方は、相当の期間(特段の事情のない限り1ヶ月とする。)を定めてその違反の是正又は義務の履行を書面で催告し、その催告期間内にその違反の是正又は義務の履行がなされなかったときは本契約を解除することができます。さらに、甲が以下の無催告解除事由のいずれかに該当する場合は、乙は、本契約を、甲に対する何らの通知又は催告を要せず、即時に本契約の全部又は一部を解除することができます。

本契約を解除又は解約する場合、特段の事情の無い限り、同社は予め本契約を解除又は解約する旨を東京証券取引所に通知することになっております。このほか、株主総会の特別決議を経て、甲が東証へ「上場廃止申請書」を提出した場合にも上場廃止となります。

なお、本書提出日現在において、本契約の解除につながる可能性のある要因は発生しておりません。

## &lt; J-Adviser 契約に関する即日無催告解除事由 &gt;

## 債務超過

甲がその事業年度の末日に債務超過の状態である場合において、1年以内に債務超過の状態から脱却しえなかったとき、すなわち債務超過の状態となった事業年度の末日の翌日から起算して1年を経過する日(当該1年を経過する日が甲の事業年度の末日に当たらないときは、当該1年を経過する日の後最初に到来する事業年度の末日)までの期間(以下この項において「猶予期間」という。)において債務超過の状態から脱却しえなかった場合。但し、甲が法律の規定に基づく再生手続若しくは更生手続又は私的整理に関するガイドライン研究会による「私的整理に関するガイドライン」に基づく整理を行うことにより、当該1年を経過した日から起算して1年以内に債務超過の状態から脱却することを計画している場合(乙が適当と認める場合に限る。)には、2年以内(審査対象事業年度の末日の翌日から起算して2年を経過する日(猶予期間の最終日の翌日から起算して1年を経過する日が甲の事業年度の末日に当たらないときは、当該1年を経過する日後最初に到来する事業年度の末日)までの期間内)に債務超過の状態から脱却しえなかったとき。

なお、乙が適当と認める場合に適合するかどうかの審査は、猶予期間の最終日の属する連結会計年度(甲が連結財務諸表を作成すべき会社でない場合には事業年度)に係る決算の内容を開示するまでの間において、再建計画(本号但し書に定める1年以内に債務超過の状態でなくなるための計画を含む。)を公表している甲を対象とし、甲が提出する当該再建計画並びに次のa及びbに定める書類に基づき行う。

a 次の(a)又は(b)の場合の区分に従い、当該(a)又は(b)に規定する書面

(a) 法律の規定に基づく再生手続又は更生手続を行う場合

当該再建計画が、再生計画又は更生計画として裁判所の認可を得ているものであることを証する書面

(b) 私的整理に関するガイドライン研究会による「私的整理に関するガイドライン」に基づく整理を行う場合

当該再建計画が、当該ガイドラインにしたがって成立したものであることについて債権者が記載した書面

b 本号但し書に定める1年以内に債務超過の状態でなくなるための計画の前提となった重要な事項等が公認会計士等により検討されたものであることについて当該公認会計士等が記載した書面

### 銀行取引の停止

甲が発行した手形等が不渡りとなり銀行取引が停止された場合又は停止されることが確実となった旨の報告を書面で受けた場合。

### 破産手続、再生手続又は更生手続

甲が法律の規定に基づく会社の破産手続、再生手続若しくは更生手続を必要とするに至った場合(甲が、法律に規定する破産手続、再生手続又は更生手続の原因があることにより、破産手続、再生手続又は更生手続を必要と判断した場合)又はこれに準ずる状態になった場合。なお、これに準ずる状態になった場合とは、次のaからcまでに掲げる場合その他甲が法律の規定に基づく会社の破産手続、再生手続又は更生手続を必要とするに至った場合に準ずる状態になったと乙が認めた場合をいうものとし、当該aからcまでに掲げる場合には当該aからcまでに定める日に本号前段に該当するものとして取り扱う。

- a 甲が債務超過又は支払不能に陥り又は陥るおそれがあるときなどで再建を目的としない  
法律に基づかない整理を行う場合甲から当該整理を行うことについての書面による報告を受けた日
- b 甲が、債務超過又は支払不能に陥り又は陥るおそれがあることなどにより事業活動の継続について困難である旨又は断念する旨を取締役会等において決議又は決定した場合であって、事業の全部若しくは大部分の譲渡又は解散について株主総会又は普通出資者総会に付議することの取締役会の決議を行った場合、甲から当該事業の譲渡又は解散に関する取締役会の決議についての書面による報告を受けた日(事業の大部分の譲渡の場合には、当該事業の譲渡が事業の大部分の譲渡であると乙が認めた日)
- c 甲が、財政状態の改善のために、債権者による債務の免除又は第三者による債務の引受若しくは弁済に関する合意を当該債権者又は第三者と行った場合(当該債務の免除の額又は債務の引受若しくは弁済の額が直前事業年度の末日における債務の総額の100分の10に相当する額以上である場合に限る。)甲から当該合意を行ったことについての書面による報告を受けた日。

前号に該当することとなった場合においても、以下に定める再建計画の開示を行った場合には、原則として本契約の解除は行わないものとする。

再建計画とは次のaないしcの全てに該当するものをいう。

- a 次の(a)又は(b)に定める場合に従い、当該(a)又は(b)に定める事項に該当すること。
  - (a) 甲が法律の規定に基づく再生手続又は更生手続を必要とするに至った場合  
当該再建計画が、再生計画又は更生計画として裁判所の認可を得られる見込みがあるものであること。
  - (b) 甲が前号cに規定する合意を行った場合当該再建計画が、前号cに規定する債権者又は第三者の合意を得ているものであること。
- b 当該再建計画に次の(a)及び(b)に掲げる事項が記載されていること。
  - (a) 当該上場有価証券の全部を消却するものでないこと。
  - (b) 前aの(a)に規定する見込みがある旨及びその理由又は同(b)に規定する合意がなされていること及びそれを証する内容
- c 当該再建計画に上場廃止の原因となる事項が記載されているなど公益又は投資者保護の観点から適当でないことと認められるものでないこと。

#### 事業活動の停止

甲が事業活動を停止した場合(甲及びその連結子会社の事業活動が停止されたと乙が認めた場合をいう)又はこれに準ずる状態になった場合。

なお、これに準ずる状態になった場合とは、次のaからcまでに掲げる場合その他甲が事業活動を停止した場合に準ずる状態になった場合と乙が認めた場合をいうものとし、当該aからcまでに掲げる場合には当該aからcまでに掲げる日に同号に該当するものとして取り扱う。

- a 甲が、合併により解散する場合のうち、合併に際して甲の株主に対してその株券等に代わる財産の全部又は一部として次の(a)又は(b)に該当する株券等を交付する場合は、原則として、合併がその効力を生ずる日の3日前(休業日を除外する。)の日
  - (a) TOKYO PRO Market の上場株券等
  - (b) 上場株券等が、その発行者である甲の合併による解散により上場廃止となる場合当該合併に係る新設会社若しくは存続会社又は存続会社の親会社(当該会社が発行者である株券等を当該合併に際して交付する場合に限る。)が上場申請を行い、速やかに上場される見込みのある株券等
- b 甲が、前aに規定する合併以外の合併により解散する場合は、甲から当該合併に関する株主総会(普通出資者総会を含む。)の決議についての書面による報告を受けた日(当該合併について株主総会の決議による承認を要しない場合には、取締役会の決議(委員会設置会社にあつては、執行役の決定を含む。)についての書面による報告を受けた日)
- c 甲が、前a及び前bに規定する事由以外の事由により解散する場合((3) bの規定の適用を受ける場合を除く。)は、甲から当該解散の原因となる事由が発生した旨の書面による報告を受けた日。

#### 不適当な合併等

甲が非上場会社の吸収合併又はこれに類する行為(非上場会社を完全子会社とする株式交換、会社分割による非上場会社からの事業の承継、非上場会社からの事業の譲受け、会社分割による他の者への事業の承継、他の者への事業の譲渡、非上場会社との業務上の提携、第三者割当による株式若しくは優先出資の割当て、その他非上場会社の吸収合併又はこれらからまでと同等の効果をもたらすと認められる行為)を行った場合で、当該上場会社が実質的な存続会社でないと乙が認めた場合。

#### 支配株主との取引の健全性の毀損

第三者割当により支配株主が異動した場合(当該割当により支配株主が異動した場合及び当該割当により交付された募集株式等の転換又は行使により支配株主が異動する見込みがある場合)において、支配株主との取引に関する健全性が著しく毀損されていると乙が認めるとき。

#### 有価証券報告書又は四半期報告書ならびに発行者情報等の提出遅延

甲が提出の義務を有する有価証券報告書又は四半期報告書ならびに発行者情報等につき、法令及び上場規程等に定める期間内に提出しなかった場合で、乙がその遅延理由が適切でないと判断した場合。

#### 虚偽記載又は不適正意見等

次のa又はbに該当する場合。

- a 甲が開示書類等に虚偽記載を行い、かつ、その影響が重大であると乙が認める場合。
- b 甲の財務諸表等に添付される監査報告書等において、公認会計士等によって、「不適正意見」又は「意見の表明をしない」旨(天災地変等、甲の責めに帰すべからざる事由によるものである場合を除く。)が記載され、かつ、その影響が重大であると乙が認める場合。

## 法令違反及び上場規程違反等

甲が重大な法令違反又は上場規程に関する重大な違反を行った場合。

## 株式事務代行機関への委託

甲が株式事務を(株)東京証券取引所の承認する株式事務代行機関に委託しないこととなった場合又は委託しないこととなることが確実となった場合。

## 株式の譲渡制限

甲が当該銘柄に係る株式の譲渡につき制限を行うこととした場合。

## 完全子会社化

甲が株式交換又は株式移転により他の会社の完全子会社となる場合。

## 指定振替機関における取扱い

甲が指定振替機関の振替業における取扱いの対象とならないこととなった場合。

## 株主の権利の不当な制限

株主の権利内容及びその行使が不当に制限されているとして、甲が次のaからgまでのいずれかに掲げる行為を行っているとして乙が認めた場合でかつ株主及び投資者の利益を侵害するおそれ大きいと乙が認める場合、その他株主の権利内容及びその行使が不当に制限されていると乙が認めた場合。

- a 買収者以外の株主であることを行使又は割当ての条件とする新株予約権を株主割当て等の形で発行する買収防衛策(以下「ライツプラン」という。)のうち、行使価額が株式の時価より著しく低い新株予約権を導入時点の株主等に対し割り当てておくものの導入(実質的に買収防衛策の発動の時点の株主に割り当てるために、導入時点において暫定的に特定の者に割り当てておく場合を除く。)
- b ライツプランのうち、株主総会で取締役の過半数の交代が決議された場合においても、なお廃止又は不発動とすることができないものの導入。
- c 拒否権付種類株式のうち、取締役の過半数の選解任その他の重要な事項について種類株主総会の決議を要する旨の定めがなされたものの発行に係る決議又は決定(持株会社である甲の主要な事業を行っている子会社が拒否権付種類株式又は取締役選任権付種類株式を甲以外の者を割当先として発行する場合において、当該種類株式の発行が甲に対する買収の実現を困難にする方策であると乙が認めるときは、甲が重要な事項について種類株主総会の決議を要する旨の定めがなされた拒否権付種類株式を発行するものとして取り扱う。)
- d 上場株券等について、株主総会において議決権を行使することができる事項のうち取締役の過半数の選解任その他の重要な事項について制限のある種類の株式への変更に係る決議又は決定。
- e 上場株券等より議決権の多い株式(取締役の選解任その他の重要な事項について株主総会において一個の議決権を行使することができる数の株式に係る剰余金の配当請求権その他の経済的利益を受ける権利の価額等が上場株券等より低い株式をいう。)の発行に係る決議又は決定。
- f 議決権の比率が300%を超える第三者割当に係る決議又は決定。ただし、株主及び投資者の利益を侵害するおそれがないと乙が認める場合は、この限りでない。
- g 株主総会における議決権を失う株主が生じることとなる株式併合その他同等の効果をもたらす行為に係る決議又は決定。

**全部取得**

甲が当該銘柄に係る株式の全部を取得する場合。

**反社会的勢力の関与**

甲が反社会的勢力の関与を受けている事実が判明した場合において、その実態がTOKYOPRO Market に対する株主及び投資者の信頼を著しく毀損したと乙が認めるとき。

**その他**

前各号のほか、公益又は投資者保護のため、乙もしくは(株)東京証券取引所が当該銘柄の上場廃止を適当と認めた場合。

**< J-Adviser 契約解除に係る事前催告に関する事項 >**

1. いずれかの当事者が、本契約に基づく義務の履行を怠り、又は、その他本契約違反を犯した場合、相手方は、相当の期間(特段の事情のない限り1ヵ月とする。)を定めてその違反の是正又は義務の履行を書面で催告し、その催告期間内にその違反の是正又は義務の履行がなされなかったときは本契約を解除することができる。
2. 前項の定めにかかわらず、甲及び乙は、合意により本契約期間中いつでも本契約を解除することができる。また、いずれかの当事者から相手方に対し、1ヵ月前に書面で通知することにより本契約を解除することができる。
3. 契約解除する場合、特段の事情のない限り乙は、あらかじめ本契約を解除する旨を(株)東京証券取引所に通知しなければならない。

### 3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

当事業年度における当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー(以下「経営成績等」という。)の概要は次のとおりであります。

##### 経営成績の状況

第25期事業年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

当事業年度における我が国経済は、米中の貿易摩擦もあり、非常に不安定な社会情勢もありながら、個人消費も持ち直しの傾向もみられ、緩やかながら景気回復が続きました。

期末に新型コロナウイルス感染症が発生し、先行きが見えない状況になっており、経済活動も予断を許されない状況が続くことが予想されます。このような情勢において、当社は「我々はお客様第一であり、企業の繁栄はお客様を増やす以外にないのである。常なるサービスはお客様の為であり、お客様の要望を満足させるべく会社を変化発展させる事こそ我が社の唯一の道である。」という企業理念のもと、営業活動の強化による新規取引先の獲得、既存取引先におけるサービスの向上に取り組んでまいりました。管理会社サポート事業においては、定期巡回物件及び清掃件数は、前年度比112.4%となり、インテリア・トータルサポート事業においては、利用運送件数が前年度比112.1%と増加し、堅調に推移いたしました。

この結果、当事業年度の売上高は3,643,856千円(前事業年度比28.5%増)となり、営業利益は255,811千円(前事業年度比171.2%増)、経常利益は253,659千円(前事業年度比172.6%増)当期純利益は174,381千円(前事業年度比198.9%増)となりました。

第26期中間会計期間(自 2020年3月1日 至2020年8月31日)

当中間会計期間における我が国経済は、2019年12月に感染が報告された新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により、2020年4月に日本政府より発出された緊急事態宣言もあり、国民の多くが自粛生活を強いられるなど、社会経済活動に大きなマイナスの影響を与えることとなりました。当中間期までの期間においても、終息の目処が立っておらず、当社の関与する住宅、不動産、インテリア業界においても、多少ならず影響が出ている状況となっております。

このような環境の中、当社の不動産サポート事業においては、定期巡回業務は堅調に推移しておりますが、短期滞在者、出張者の減少による室内清掃業務の減少とインテリアサポート事業のツーマン配送事業ならびに外出自粛による各種販売会中止に伴う一括配送の中止等によって、売上減少の影響を及ぼしました。また、販売費及び一般管理費においては、管理体制の強化を図るべく、人員の増員を進めた為、413,540千円(前年同期比21.9%増)となりました。

これらの結果、当中間会計期間の売上高は1,866,999千円(前年同期比 5.2%増)となり、営業利益は117,072千円(前年同期比 10.7%減)、経常利益は114,981千円(前年同期比 12.0%減)中間純利益は84,355千円(前年同期比 0.9%減)となりました。

なお、当社は御用聴き事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

##### 財政状態の状況

第25期事業年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

##### (流動資産)

当事業年度末における流動資産の残高は961,089千円で、前事業年度末に比べ232,544千円増加しております。現金及び預金の増加169,563千円及び売掛金の増加70,532千円が主な変動要因であります。

##### (固定資産)

当事業年度末における固定資産の残高は479,282千円で、前事業年度末に比べ19,495千円減少しております。特許権の減少10,136千円及び建物(純額)の減少9,373千円が主な変動要因であります。



(流動負債)

当事業年度末における流動負債の残高は483,525千円で、前事業年度末に比べ139,856千円減少しております。短期借入金の減少270,000千円、1年内返済予定の長期借入金の増加39,886千円、未払法人税等の増加34,325千円、未払消費税等の増加25,847千円が主な変動要因であります。

(固定負債)

当事業年度末における固定負債の残高は453,355千円で、前事業年度末に比べ183,698千円増加しております。長期借入金の増加193,243千円が主な変動要因であります。

(純資産)

当事業年度末における純資産の残高は503,491千円で、前事業年度末に比べ169,206千円増加しております。当期純利益の計上による利益剰余金の増加174,381千円が主な変動要因であります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

第26期中間会計期間（自 2020年3月1日 至2020年8月31日）

(流動資産)

当中間会計期間末における流動資産の残高は1,878,685千円で、前事業年度末に比べ917,595千円増加しております。現金及び預金の増加900,375千円、売掛金の増加13,516千円、前払費用の増加3,590千円が主な変動要因であります。

(固定資産)

当中間会計期間末における固定資産の残高は430,715千円で、前事業年度末に比べ48,566千円減少しております。ソフトウェア仮勘定の増加8,690千円、土地の減少38,708千円、敷金及び保証金の減少7,939千円、ソフトウェアの減少5,589千円が主な変動要因であります。

(流動負債)

当中間会計期間末における流動負債の残高は649,032千円で、前事業年度末に比べ165,507千円増加しております。1年内返済予定の長期借入金の増加147,372千円、短期借入金の増加100,000千円、未払費用の減少26,265千円、未払消費税等の減少24,390千円、未払法人税等の減少18,754千円が主な変動要因であります。

(固定負債)

当中間会計期間末における固定負債の残高は1,081,146千円で、前事業年度末に比べ627,791千円増加しております。長期借入金の増加622,697千円、役員退職慰労引当金の増加5,094千円が変動要因であります。

(純資産)

当中間会計期間末における純資産の残高は579,222千円で、前事業年度末に比べ75,730千円増加しております。当中間会計期間の中間純利益による増加84,355千円、配当金の支払による減少8,625千円がその主な変動要因であります。

#### キャッシュ・フローの状況

第25期事業年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

当事業年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)の残高は410,273千円(前事業年度末比169,563千円増加)となりました。各キャッシュ・フローの状況とその主な要因は以下の通りであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により獲得した資金は230,252千円で前事業年度末に比べ146,134千円増加しております。主な増加要因は、税引前当期純利益の計上253,659千円、減価償却費39,604千円、未払消費税等の増加額25,847千円によるものであり、主な減少要因は売上債権の増加額70,532千円、法人税等の支払額45,465千円によるものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は18,642千円で前事業年度末に比べ103,317千円減少しております。これは主に、無形固定資産の取得による支出12,597千円によるものであります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は42,046千円で、前事業年度末に比べ207,085千円減少しております。増加要因は、長期借入れによる収入270,000千円によるものであり、主な減少要因は、短期借入金の純減少額270,000千円及び長期借入金の返済による支出36,871千円であります。

第26期中間会計期間(自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)

当中間会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)の残高は1,310,648千円で前事業年度末に比べ900,375千円増加となりました。各キャッシュ・フローの状況とその主な要因は以下の通りであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により獲得した資金は2,015千円(前年同期比 108,550千円減)となりました。これは主に税引前中間純利益127,813千円、法人税等の支払額61,945千円、未払費用の減少額25,965千円、未払消費税等の減少額24,390千円等によるものです。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により獲得した資金は36,754千円(前年同期比 46,040千円増)となりました。これは主に有形固定資産の売却による収入48,540千円等によるものです。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により獲得した資金は861,444千円(前年同期比 876,364千円増)となりました。これは主に長期借入れによる収入850,000千円、短期借入金の純増加額100,000千円、長期借入金の返済による支出79,931千円等によるものです。

## 生産、受注及び販売の状況

## a．生産実績

当社は生産の形態をとらないため、該当事項はありません。

## b．受注実績

各事業共に概ね受注から役務提供の開始までの期間が短いため、該当事項はありません。

## c．販売実績

第25期事業年度及び第26期中間会計期間の販売実績を示すと、次のとおりです。

当社は御用聴き事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(単位：千円)

サービスの名称	第25期事業年度 (自 2019年 3月 1日 至 2020年 2月29日)	前事業年度比(%)	第26期中間会計期間 (自2020年 3月 1日 至2020年 8月31日)
管理会社サポート事業	2,371,644	+ 23.7	1,291,821
インテリア・トータルサポート事業	1,245,125	+ 37.8	555,307
その他	27,087	+ 77.9	19,871
合計	3,643,856	+ 28.5	1,866,999

## (注) 1．主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	第24期事業年度 (自 2018年 3月 1日 至 2019年 2月28日)		第25期事業年度 (自 2019年 3月 1日 至 2020年 2月29日)		第26期中間会計期間 (自2020年 3月 1日 至2020年 8月31日)	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
株式会社マックスファ シリティーズ	479,366	16.9	754,892	20.7	390,602	20.9
エリアリンク株式会社	405,876	14.3	484,513	13.3	231,646	12.4

2．上記金額には消費税等は含まれておりません。

## (2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社の経営成績等の状況に関する分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において判断したものであります。

## 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づき作成されております。この財務諸表の作成にあたって、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としております。経営者は、これらの見積りについて、過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積りによる不確実性のため、これらの見積りと異なる場合があります。

## 当事業年度の経営成績及び財務状態の状況の分析

当社の当事業年度の経営成績につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 経営成績の状況及び財務状態の状況」に記載のとおりであります。

## 経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「2 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

#### 資本の財源及び資金の流動性

##### a. キャッシュフローの状況

「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

##### b. 資金の需要

当社の資金需要の主なものは、営業人員及び管理部門人員の人件費等の販売費及び一般管理費の営業費用によるものであります。

##### c. 当社の運転資金につきましては、短期的な預金等の内部資金より充当し、不足が生じた場合は銀行からの短期借入金及び長期借入金での調達を基本としております。

新型コロナウイルスの予備対策費として金融機関より9億5千万円を借入しております。

#### 経営方針・経営戦略・経営上の目標の達成状況を判断するための客観的指標

当社は、「我々はお客様第一であり、企業の繁栄はお客様を増やす以外にないのである。常なるサービスはお客様の為であり、お客様の要望を満足させるべく会社を変化発展させる事こそ我が社の唯一の道である。」という企業理念のもと、不動産管理会社及びマンション運営会社並びにハウスメーカー及び不動産流通会社等の顧客から汲み取った要望を全社で共有し、解決に向け対処することによりサービスを拡充し、企業価値の向上することで、社会に貢献するとともに、サービスの提供に伴う売上によって利益拡大の実現を推進しております。

経営目標の達成状況を判断する具体的な指標として、売上高成長率、営業利益率の確保を重視しております。当該指標の達成状況の内容は以下のとおりとなっております。

第24期事業年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)における我が国経済は、緩やかな景気の回復基調が継続しておりましたが、米国発の貿易戦争による中国経済の減速や、消費税率引き上げ観測による景気回復の失速の懸念により先行不透明な状況が続きました。また、個人所得の改善の伸びは鈍化のまま人口減少が顕著に現れ、個人消費による景気牽引は厳しい状況にあります。その中、当社事業である管理会社サポート事業においては、定期巡回物件及び清掃件数の増加やコールセンター業務の拡大、インテリアトータルサポート事業においては、利用運送の増加など、堅調に推移しております。

この結果、当事業年度の売上高は2,835,351千円(前事業年度比23.4%増)となり、営業利益は94,323千円(前事業年度比20.9%増)となり、売上高成長率は123.4%、営業利益率は3.3%となりました。

第25期事業年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)においては、米中の貿易摩擦もあり、非常に不安定な社会情勢もありながら、個人消費も持ち直しの傾向もみられ、緩やかながら景気回復が続きました。

期末に新型コロナウイルス感染症が発生し、先行きが見えない状況になり、経済活動も予断を許されない状況が続くことが予想される中、当社では、営業活動の強化による新規取引先の獲得、既存取引先におけるサービスの向上に取り組んでまいりました。

この結果、当事業年度の売上高は3,643,856千円(前事業年度比28.5%増)、営業利益は255,811千円(前事業年度比171.2%増)となり、売上高成長率は128.5%、営業利益率は7.0%となりました。

第26期事業年度（自 2020年3月1日 至2021年2月28日）においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、不動産管理サポート事業においては、室内清掃業務の委託先である短期賃貸・マンション関連の稼働率が当該利用者の出張ならびに長期研修の中止が重なり、清掃件数が減少したため、2020年8月20日業績の通期予想を修正いたしました。そのため売上高成長率、営業利益率ともに前事業年度を下回る目標となっております。

当該指標の推移については、次表のとおりとなっております。

	第24期事業年度	第25期事業年度	第26期事業年度(目標)
	自 2018年3月1日 至 2019年2月28日	自 2019年3月1日 至 2020年2月29日	自 2020年3月1日 至 2021年2月28日
売上高 (百万円)	2,835	3,643	4,009
営業利益 (百万円)	94	255	134
売上高成長率目標 実績 (%)	121.6 123.4	143.3 128.5	110.0
営業利益率 目標 実績 (%)	4.4 3.3	5.2 7.0	3.3

経営者の問題意識と今後の方針については、「1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」に記載のとおりであります。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

該当事項はありません。

#### 2 【主要な設備の状況】

2020年2月29日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)			従業員(人)
		建物	土地 (面積㎡)	合計	
花田倉庫 (埼玉県越谷市)	貸倉庫	6,199	27,149 (232.05)	33,349	-
千葉センター (千葉県八千代市)	貸事務所・倉庫	-	38,708 (377.12)	38,708	-
本社ビル (埼玉県越谷市)	本社及び賃貸等不動産	38,818	99,972 (406.44)	138,791	59
ハローストレージ (神奈川県横浜市南区)	貸倉庫	67,343	40,002 (157.00)	107,346	-

(注) 1. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

2. 上記の他、主要な賃借設備として以下のものがあります。

事業所名 (所在地)	設備の内容	年間賃借料 (千円)
東京営業所 (東京都江東区)	建物(事務所)	6,801
西日本支店 (大阪府豊中市)	建物(事務所)	16,800
福岡営業所 (福岡県福岡市博多区)	建物(事務所)	2,760
備品管理センター (埼玉県吉川市)	建物(倉庫)	21,000
インテリアファブリック管理センター (東京都江戸川区)	建物(倉庫)	12,060
名古屋営業所 (愛知県あま市)	建物(事務所)	3,600

#### 3 【設備の新設、除却等の計画】

##### (1) 重要な設備の新設等

重要な設備の新設等の計画はありません。

##### (2) 重要な設備の売却等

賃貸部門において、次の設備を売却しております。その内容は以下のとおりであります。

事業所名	所在地	設備の内容	売却時期	売却価格	前期末帳簿価額
千葉 センター	千葉県八千代市	貸事務所・ 倉庫	2020年3月30日	51,350千円	38,708千円

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

## 第4 【提出会社の状況】

## 1 【株式等の状況】

## (1) 【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	690,000
計	690,000

## 【発行済株式】

種類	発行株数(株)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	172,500	東京証券取引所 (TOKYO PRO Market)	単元株式数は100株でありま ず。
計	172,500		



## (2) 【新株予約権等の状況】

## 【ストックオプション制度の内容】

決議年月日	2018年3月7日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役6名 当社従業員52名
新株予約権の数(個)	958(注)2
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 23,950
新株予約権行使時の払込金額(円)	2,000
新株予約権の行使期間	2021年6月1日～2028年3月22日(但し、2028年3月22日が銀行営業日でない場合にはその前銀行営業日)までとする。
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 2,000 資本組入額 1,000
新株予約権の行使の条件	(注)4
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による本新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5

最近事業年度の末日(2020年2月29日)における内容を記載しております。提出日の前月末現在(2020年12月31日)において、これらの事項に変更はありません。

- (注) 1. 新株予約権1個につき25円で有償発行しております。  
 2. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、25株であります。  
 なお、付与株式数は、本新株予約権の割当日後、当社が株式分割(当社普通株式の無償割当てを含む。以下同じ。)または株式併合を行う場合、次の算式により調整されるものとする。ただし、かかる調整は、本新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的である株式の数についてのみ行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割(または併合)の比率}$$

また、本新株予約権の割当日後、当社が合併、会社分割または資本金の額の減少を行う場合その他これらの場合に準じ付与株式数の調整を必要とする場合には、合理的な範囲で、付与株式数は適切に調整されるものとする。

3. 本新株予約権の割当日後、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割(または併合)の比率}}$$

また、本新株予約権の割当日後、当社が当社普通株式につき時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分を行う場合(新株予約権の行使に基づく新株の発行及び自己株式の処分並びに株式交換による自己株式の移転の場合を除く。)、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株あたり払込金額}}{\text{新規発行前の1株あたりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記算式において「既発行株式数」とは、当社普通株式にかかる発行済株式総数から当社普通株式にかかる自己株式数を控除した数とし、また、当社普通株式にかかる自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

さらに、上記のほか、本新株予約権の割当日後、当社が他社と合併する場合、会社分割を行う場合、その他これらの場合に準じて行使価額の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で適切に行使価額の調整を行うことができるものとする。

4. 新株予約権者は、当社が金融商品取引法に基づき提出する2021年2月期から2025年2月期のいずれかの事業年度における、有価証券報告書に記載された損益計算書(連結損益計算書を作成している場合、連結損益計算書)において、経常利益が下記(a)または(b)に掲げる各条件を充たした場合、各新株予約権者に割り当てられた本新株予約権のうち、それぞれ定められた割合(以下、「行使可能割合」という。)を上限として行使することができる。
- (a) 経常利益が200百万円を超過した場合行使可能割合：50%
- (b) 経常利益が300百万円を超過した場合行使可能割合：100%
- なお、国際財務報告基準の適用等により参照すべき項目の概念に重要な変更があった場合には、別途参照すべき指標を当社取締役会にて定めるものとする。また、行使可能割合の計算において、各新株予約権者の行使可能な本新株予約権の数に1個未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てた数とする。
- 新株予約権者は、新株予約権の権利行使時においても、当社または当社関係会社の取締役、監査役または従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。
- 新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。
- 本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における発行可能株式総数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。
- 各本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。
5. 当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転(以上を総称して以下、「組織再編行為」という。)を行う場合において、組織再編行為の効力発生日に新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社(以下、「再編対象会社」という。)の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。
- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数  
新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。
- (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類  
再編対象会社の普通株式とする。
- (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数  
組織再編行為の条件を勘案のうえ、上記(注)1に準じて決定する。
- (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額  
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案のうえ、上記(注)2で定められる行使価額を調整して得られる再編後行使価額に、上記(3)に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じた額とする。
- (5) 新株予約権を行使することができる期間  
上記の行使期間の初日と組織再編行為の効力発生日のうち、いずれか遅い日から上記の行使期間の末日までとする。
- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項  
上記の株式の発行価格及び資本組入額に準じて決定する。
- (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限  
譲渡による取得の制限については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。
- (8) その他新株予約権の行使の条件  
上記(注)3に準じて決定する。
- (9) 新株予約権の取得事由及び条件  
当社が消滅会社となる合併契約、当社が分割会社となる会社分割についての分割契約もしくは分割計画、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画について株主総会の承認(株主総会の承認を要しない場合には取締役会決議)がなされた場合は、当社は、当社取締役会が別途定める日の到来をもって、本新株予約権の全部を無償で取得することができる。  
新株予約権者が権利行使をする前に、上記(注)3に定める規定により本新株予約権の行使ができなくなった場合は、当社は新株予約権を無償で取得することができる。
- (10) その他の条件については、再編対象会社の条件に準じて決定する。

## 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2017年9月8日 (注)	171,925	172,500	-	50,000	-	-

(注) 2017年8月23日開催の取締役会決議により、2017年9月8日付で普通株式1株を300株に分割しております。これにより発行済株式総数は171,925株増加し、172,500株となっております。

## (4) 【所有者別状況】

2020年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	-	-	2	-	-	1	3	-
所有株式数 (単元)	-	-	-	1,200	-	-	525	1,725	-
所有株式数 の割合(%)	-	-	-	69.6	-	-	30.4	100	-

## (5) 【大株主の状況】

2020年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く)の総 数に対する所有株 式数の割合(%)
株式会社花明	埼玉県北葛飾郡松伏町大字上赤岩1530番地 - 1	119,900	69.51
中本久富	埼玉県北葛飾郡松伏町	52,500	30.43
松本寝具株式会社	東京都江東区南砂5丁目15-11	100	0.06
計		172,500	100.00

(注) 発行済株式(自己株式を除く)の総数に対する所有株式数の割合は、小数点以下第3位を四捨五入しております。

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2020年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 172,500	1,725	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	172,500	-	-
総株主の議決権	-	1,725	-

## 【自己株式等】

該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

## (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

## (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

## (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

## (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

### 3 【配当政策】

当社では株主に対する利益還元を経営上の重要施策として認識し、将来の持続的な成長に必要な設備投資等や、経営基盤の強化に係わる内部留保を確保しつつ業績の状況、取り巻く環境及び中長期を展望した財務体質を勘案し、継続的かつ安定的に利益配当を実施することを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当に年2回の剰余金の配当を行うことができる旨を定款に定めております。これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

今後の配当につきましては、財政状態、経営成績及び今後の事業計画を勘案し内部留保とのバランスを図りながら、その実施を検討する所存であります。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき1株につき50円(中間配当0円)の配当を実施することを決議いたしました。この結果当事業年度の配当性向は4.9%となりました。

内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、営業体制の強化に有効投資したいと考えております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
2020年5月20日 定時株主総会決議	8,625	50

## 4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

#### コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、コーポレート・ガバナンスを企業経営の重要事項と位置付けております。株主をはじめ多様なステークホルダーとの適切な関係を維持し、社会に対する責任を果たしながら事業活動を行うことが、長期的な業績向上や持続的成長の目的達成に最も重要な課題のひとつと考えております。コーポレート・ガバナンスの機能を充実させ、透明性と公正性の高い経営を確立することは当社の重要な基本的責務です。

このため、当社は取締役会を中心とした経営監督・監視機能を強化し、内部統制・リスク管理等の問題に対処するため、コーポレート・ガバナンス体制を整備し、持続的発展を第一義に考えた事業運営を行ってまいります。

#### 企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は、会社の機関として、取締役会、監査役会を設けるとともに、会社の業務執行に関する協議・決定機関として、経営会議を設置しております。当社の規模、事業内容その他から検討した結果、監査役会設置会社が投資家からの信任獲得のために適した会社形態と判断し現在の体制を選択しております。また、取締役会による経営監督の実効性と意思決定の透明性を向上させ、コーポレート・ガバナンス体制のより一層の強化を図るため、1名の社外取締役を選任しております。

#### a. 取締役会

当社の取締役会は、6名の取締役(うち社外取締役1名)で構成されております。

取締役会は、法令、定款及び株主総会決議に基づき、取締役会規程等の会社運営の基礎となる諸基準を整備し、取締役の職務執行の適正性及び効率性を確保しております。なお、定時取締役会を毎月1回、その他必要に応じて臨時取締役会を開催し、経営に関する重要事項を決定しております。

取締役は、会社の業務執行状況を取締役に報告するものとしており、これをもとに、取締役会は取締役の職務執行を監督しております。

取締役：伊藤 裕昭(代表取締役社長)、二田 泰久、宮崎 恵子、柳澤 謙介、早坂 貴幸  
社外取締役：武田 茂

#### b. 監査役会

当社は監査役会制度を採用しており、4名(うち社外監査役3名)で構成されております。監査役会は原則として毎月1回定期的な開催に加え、重要事項等が発生した場合、必要に応じて臨時監査役会を開催しております。

監査役は、監査役監査規程に基づき、取締役の職務執行状況を適正に監査しております。また、監査役は取締役会に出席し、取締役の職務の執行状況を監視するとともに、適宜必要な意見を述べております。

なお、定款において監査役の定数を5名以内としております。

監査役：長池 知己  
社外監査役：澤田 雪児、細川 律夫、横塚 章

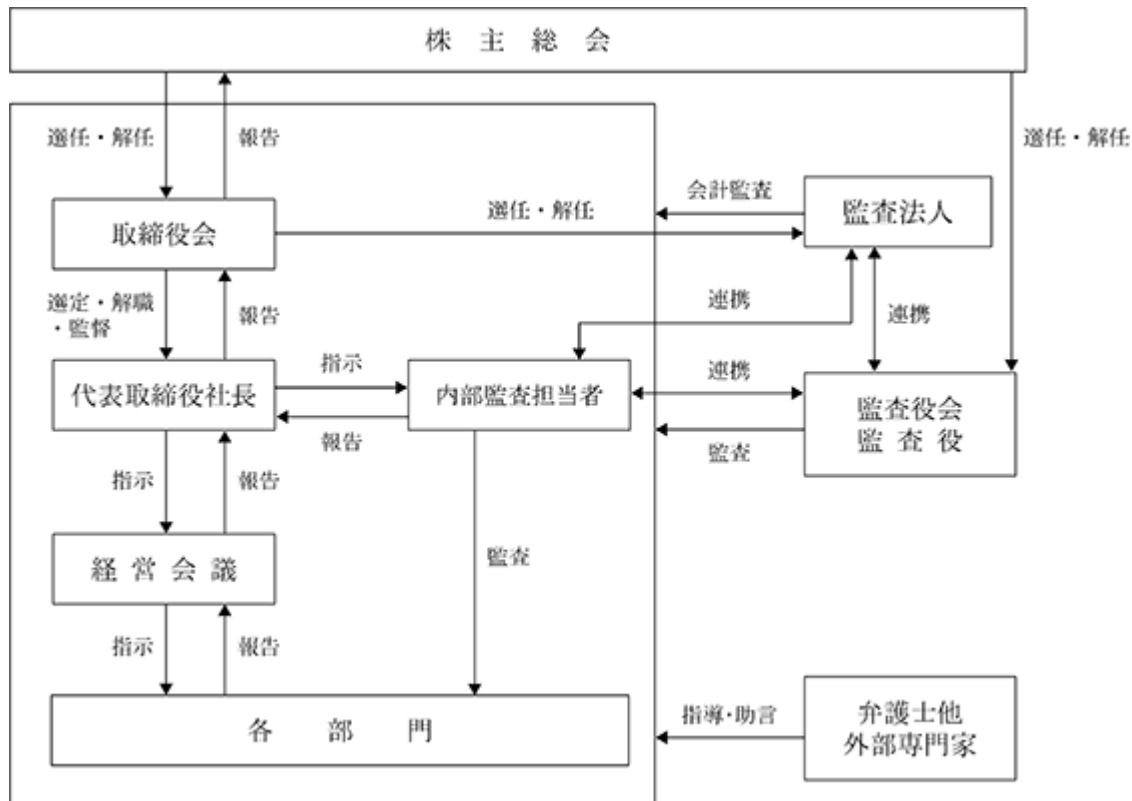
#### c. 経営会議

経営会議は、常勤取締役5名、経営企画室長及び副室長、次長3名の10名によって構成され、原則として毎月1回定期的な開催に加え、必要に応じて臨時に開催しております。経営会議は、取締役会に提案すべき事項その他経営上重要な事項を協議・決定するほか、構成員から業務執行上の報告を受け、構成員相互の情報連絡を図っております。また、経営会議には監査役1名(常勤)も出席し、経営に関する意見交換を行っております。

## d．内部監査

内部監査は、会社の組織、制度及び業務が経営方針並びに社内規程等に準拠し、効率的に運用されているかを検証、評価及び助言することで、不正等の未然防止、適正な管理情報の提供等により、経営効率の増進に資することを目的としております。現状専任の内部監査人はおりませんが、代表取締役社長から指名を受けた、経営企画室(担当者2名)が主管部署として、業務を監査しております。経営企画室の監査は、管理部が実施しており、相互に牽制する体制をとっております。各部の監査結果並びに改善点につきましては、内部監査担当者より、代表取締役社長に対し報告書並びに改善要望書を提出する体制をとっております。

当社のコーポレート・ガバナンスの模式図は、次のとおりであります。



## 企業統治に関するその他の事項

## 1) 内部統制システムの状況

当社は、職務権限規程の遵守により、業務を合理的に分担することで、特定の組織並びに特定の担当者に業務や権限が集中することを回避し、内部牽制機能が適切に働くよう努めております。当社の内部統制システムの基本方針の概要は次のとおりであります。

## a．取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行に係る情報については、法令及び文書管理規程等に基づき、電磁的記録又は文書により、秘密保持に万全を期すとともに、検索性の高い状態で保存・管理するものとする。

- b. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- ・リスクを適正に管理し、また、顕在化したリスクに速やかに対処するとともに、損失を最小限にとどめるために、危機管理規程を定めるものとする。
  - ・リスク管理体制は、継続的に改善活動を行うとともに、内部監査において、その運用状況及び有効性を監査し、必要に応じて是正を講ずるものとする。
- c. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- ・取締役の職務執行が効率的に行われることを確保するために、毎月1回定期に取締役会を開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、取締役の職務執行を監督するものとする。
  - ・取締役は、取締役会で決定した経営の基本方針等の下に職務執行するとともに、その執行状況を取締役会に報告するものとする。
  - ・「職務権限規程」、「組織・業務分掌規程」等を定め、業務執行の責任体制と業務プロセスを明確にすることにより、取締役会の決定に基づく職務執行について、迅速かつ効率的な処理が行える体制を構築するものとする。
- d. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
- ・取締役及び使用人が遵守すべき行動規範、社内規程等を定め、法令及び定款等への適合体制を確立する。
  - ・職務執行については、法令、定款及び社内規程等に基づき、取締役会により決定するものとする。
  - ・内部監査において、法令、定款及び社内規程等の遵守状況について監査を行い、必要に応じて是正を講ずるものとする。
  - ・コンプライアンスに関する社内通報制度として、経営企画室長ならびに常勤監査役に相談窓口を設けるものとする。
  - ・反社会的勢力には、組織的に毅然とした態度で対応する。また、必要に応じて警察等関係機関や顧問弁護士等と連携するものとする。
- e. 監査役の職務を補助すべき使用人に関する体制
- 当社は、監査役求めに応じて、監査役の職務を補助すべき使用人として、当社の使用人の中から監査役補助者を置くことができるものとする。
- f. e. の使用人の取締役からの独立性に関する事項
- 監査役を補助すべき使用人の独立性を確保するため、当該使用人の任命、異動等の人事権に関わる事項の決定には、監査役の事前の同意を得るものとし、人事考課については、常勤監査役の意見を考慮して行うものとする。
- g. 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制
- ・代表取締役社長は、監査役と定期的に意見交換を行うものとする。
  - ・取締役及び使用人は、その職務執行において会社に著しい損害を与える事実並びに著しい損害を与えるおそれのある事実を発見した場合は、直接又は相談窓口を通じて、速やかに監査役に報告するものとする。また、監査役から報告を求められた場合は、必要な報告及び情報提供を適時適切に行うものとする。
- h. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- ・取締役会その他の重要な会議の開催にあたり、監査役が出席する機会を設けるものとする。
  - ・監査役の監査が実効的に行われることを確保するため、内部監査責任者及び監査法人との連携体制の整備に協力するものとする。



2) 取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨を定款で定めております。

3) 取締役及び監査役の責任免除

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役(取締役であった者を含む。)及び監査役(監査役であった者を含む。)の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会決議によって免除することができる旨を定款に定めております。

4) 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び選任決議は、累積投票によらない旨を定款に定めております。

5) 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年8月31日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

6) 自己株式の取得

当社は、事業環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

7) 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

## (2) 【役員の状況】

## 役員一覧

男性9名 女性1名（役員のうち女性の比率10.0%）

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数(株)
代表取締役	社長	伊藤 裕昭	1973年3月5日	1991年7月 2003年4月 2004年12月 2013年12月	株式会社三協運輸サービス入社 株式会社パパネッツ取締役就任 株式会社三協運輸サービス取締役就任 当社代表取締役社長就任(現任)	(注)1	
専務取締役	事業統括本部長	二田 泰久	1971年4月21日	1990年4月 2003年4月 2004年12月 2013年12月 2020年5月	株式会社三協運輸サービス入社 株式会社パパネッツ取締役就任 株式会社三協運輸サービス取締役就任 当社専務取締役就任(現任) 当社事業統括本部長就任(現任)	(注)1	
常務取締役	管理本部長	宮崎 恵子	1958年5月18日	1983年4月 2000年7月 2003年9月 2016年9月 2017年3月 2017年3月 2017年5月 2020年5月	株式会社関西相互銀行(現株式会社関西みらい銀行)入行 株式会社日島大和入社 株式会社三協運輸サービス入社 株式会社三協運輸サービス取締役就任 当社取締役就任 当社総務経理部長就任 当社常務取締役就任(現任) 当社管理本部長就任(現任)	(注)1	
取締役	管理本部総務部長	柳澤 謙介	1967年11月20日	1988年5月 1996年7月 2000年12月 2000年12月 2016年3月 2017年3月 2017年3月 2020年5月	株式会社三協運輸サービス入社 株式会社三協運輸サービス統括部長就任 株式会社三協ファーストフレート取締役就任 株式会社三協マイスタッフ取締役就任 株式会社三協運輸サービス取締役就任 当社取締役就任(現任) 当社首都圏本部長就任 当社管理本部総務部長就任(現任)	(注)1	
取締役	西日本事業部長	早坂 貴幸	1973年6月13日	1992年4月 2014年3月 2019年5月 2020年5月	株式会社三協運輸サービス入社 当社西日本支店支店長就任 当社取締役就任(現任) 当社西日本事業部長就任(現任)	(注)1	
取締役(非常勤)	-	武田 茂	1952年9月11日	1978年10月 1983年4月 1988年8月 1994年9月 1998年6月 2002年12月 2011年6月 2012年8月 2015年6月 2016年6月 2016年6月 2017年3月 2019年5月	監査法人太田哲三事務所(現EY新日本有限責任監査法人)入所 日本合同ファイナンス株式会社(現株式会社ジャフコ)入社 武田公認会計士事務所開設(現任) トッキ株式会社社外監査役就任 一般社団法人全国届出自動車教習所協会監事就任(現任) 興亜監査法人代表社員就任(現任) 一般社団法人日本ウォーキング協会監事就任(現任) 税理士法人KOA代表社員就任(現任) 公益財団法人松園尚己記念財団評議員就任(現任) 特定非営利活動法人新日本歩き道紀行推進機構監事就任(現任) 公益財団法人八幡記念育英奨学金理事就任(現任) 当社監査役就任 当社社外取締役就任(現任)	(注)1	

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
監査役 (常勤)	-	長池 知己	1959年8月11日	1983年4月	北海道大成バルコン株式会社(現大成建設ハウジング株式会社)入社	(注) 3	
			1986年5月	株式会社インテリアセンター(現カンディハウス株式会社)入社			
			2008年12月	株式会社パバサン入社			
			2009年12月	ドゥーマンズ株式会社取締役就任			
			2013年12月	当社取締役就任			
			2020年5月	当社常勤監査役就任(現任)			
監査役 (非常勤)	-	澤田 雪児	1966年9月12日	1990年4月	大和証券株式会社入社	(注) 2	
			1991年4月	井上斉藤英和監査法人(現有限責任あずさ監査法人)入所			
			2004年4月	澤田公認会計士事務所所長(現任)			
			2019年5月	当社常勤監査役就任			
			2020年5月	当社監査役就任(現任)			
監査役 (非常勤)	-	細川 律夫	1943年8月8日	1974年4月	弁護士登録	(注) 2	
			1990年2月	衆議院議員			
			2009年9月	厚生労働副大臣			
			2010年9月	厚生労働大臣			
			2019年5月	当社監査役就任(現任)			
監査役 (非常勤)	-	横塚 章	1954年7月14日	1985年4月	弁護士登録	(注) 2	
			1985年4月	東京弁護士会			
			1985年4月	日本弁護士連合会			
			1985年4月	弁護士倫理委員会 委員			
			2019年5月	当社監査役就任(現任)			
計							

- (注) 1. 取締役の任期は、2019年2月期に係る定時株主総会終結の時から2021年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
2. 監査役澤田雪児、細川律夫及び横塚章の任期は、2019年2月期に係る定時株主総会終結の時から2023年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
3. 監査役長池知己の任期は2020年2月期に係る定時株主総会終結の時から2024年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4. 武田茂は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
5. 澤田雪児、細川律夫及び横塚章は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

#### 社外役員の状況

社外取締役1名、社外監査役は3名を選任しております。

社外取締役武田茂氏は、公認会計士であり、財務及び会計の専門家の立場から経営に対する監視、監督機能を担っております。また、当社との間には人的関係、資本的関係、または、取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役澤田雪児氏は公認会計士の資格を有していることから、会計に関する広い経験と知識で適正な監査と助言が期待できるものと考えております。細川律夫氏及び横塚章氏は、弁護士として法律及び政治に関する高い見識を有しており、有意義な助言や意見をいただけると判断しております。また、当社との間には人的関係、資本的関係、または、取引関係その他の利害関係はありません。

なお、当社は、社外取締役または社外監査役の独立性に関する基準または方針について特段の定めはありませんが、選任に際しては、客観的、中立の経営監視機能が十分に発揮されるよう、取引関係等を考慮した上で、選任を行っております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会において、必要な情報収集を行い、専門分野における豊富な経験と高い見識から、取締役の職務執行状況を確認し意思決定の妥当性・適正性を確保するための提言を行い、意見交換を行う等連携を図っております。社外監査役は、会計監査人との定例的な報告会により当企業集団の現状及び監査上の重要課題等について意見交換をし、監査役監査においては、その独立性、中立性、専門性を発揮し監査を実施するとともに、内部監査担当と適宜連携を図り情報収集や意見交換を行っております。

### (3) 【監査の状況】

#### 監査役監査の状況

当社は社外監査役3名を含む監査役4名による監査役会設置会社であります。監査役会は毎事業年度立案する監査計画に基づき、監査役は取締役会をはじめとする社内の重要な会議への参加のほか、取締役および従業員からの事業の運営状況の聴取を通じて、取締役の経営判断や職務遂行の状況を監査しております。また、毎月1回開催する定例監査役会において、監査状況について監査役相互の情報共有を行うとともに、内部監査担当者、監査法人とミーティングを持つことで監査の実効性の向上を図っております。なお、監査役澤田雪児氏は公認会計士の資格を、監査役細川律夫氏、横塚章氏は弁護士資格を有しており、各々専門的知見から監査を行っております。

当事業年度において当社は定例監査役会を月1回開催しており、個々の監査役の出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
長池 知己	10回	10回
澤田 雪児	10回	10回
細川 律夫	10回	9回
横塚 章	10回	10回

#### 内部監査の状況

内部監査は経営企画室の担当者2名が、内部監査規程に基づき、各部門の業務活動全般に対して、適正な業務の遂行、業務上の過誤による不測事態の発生の予防、業務の改善と経営効率の向上等について監査を実施するとともに、監査役及び会計監査人との連携・調整を図り、効率的な内部監査の実施に努めております。なお、経営企画室の内部監査については、管理部により行い相互牽制体制をとっております。

#### 会計監査の状況

##### a. 監査法人の名称

Moore至誠監査法人

b. 継続監査期間

2017年2月期以降

c. 業務を執行した公認会計士の氏名

公認会計士 森脇淳

公認会計士 梅澤慶介

(注) 継続監査年数は、全員7年を超えておりませんので記載しておりません。

d. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 3名

その他 1名

e. 監査法人の選定方針と理由

監査法人から監査計画等について説明を受けたうえで、監査法人としての品質管理体制、独立性及び専門性、事業分野への理解、監査報酬等を総合的に勘案し、適任と判断しております。

f. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社の監査役及び監査役会は、監査法人に対して評価を行っております。この評価については、監査法人より報告の受領、報告の聴取及び監査法人の実証手続へ同席をすることで、監査法人の監査方法及び監査結果が相当であることを確認しております。

## 監査役報酬の内容等

## a. 監査公認会計士等に対する報酬

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
7,000		8,000	

b. 監査公認会計士等と同一のネットワーク(Moore Global Network Limited)に対する報酬(a.を除く)  
(最近事業年度の前事業年度)

該当事項はありません。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容  
(最近事業年度の前事業年度)

該当事項はありません。

## d. 監査報酬の決定方針

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、監査法人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠などが適切であるかどうかについて必要な検証を行い、監査役会の同意を得た上で、決定することを基本方針としております。

## e. 監査役会が監査法人の報酬等に同意した理由

取締役会が提出した監査法人に対する報酬等に対して、監査計画、監査日数、当社の規模・特性等を勘案し、それらの妥当性について監査役会で検討した結果、会社法第399条第1項の同意を行うことが相当と判断いたしました。

## (4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社は役員の報酬等の額の決定に関する具体的な方針は定めておりませんが、世間基準・経営成績及び従業員給与とのバランス等を考慮して決定することとしております。また、その決定方法は、下記のとおり株主総会で決定された報酬枠の限度額内において、取締役報酬は取締役会の決議に従い、監査役報酬は監査役会の協議により決定しております。さらに、毎年株主総会後に行われる取締役会並びに監査役会において確認及び見直しの必要があれば協議することとしております。当事業年度の役員の報酬等の額の決定は、取締役については、2019年5月22日開催の取締役会においてなされ、かつ確認されております。監査役については、2019年5月22日開催の監査役会においてなされております。

なお、取締役の報酬限度額は、2018年5月23日開催の第23会定時株主総会にて年額1億円以内と決議されております。また、監査役報酬限度額は2018年5月23日開催の第23会定時株主総会にて年額1千万円以内と決議されております。

## ・取締役

取締役（社外取締役を除く）の報酬は、固定報酬のほかに、当社の経営成績及び企業価値向上と報酬体系との連動性を明確にし、取締役の経営成績及び企業価値向上に対する意識を高めるため経営成績に連動する賞与を導入しております。経営成績に連動する賞与については、明確な指標は設定しておりませんが、売上高、営業利益を参考に、経営成績への寄与度、貢献度を加味し総合的に評価し決定しております。

## ・監査役

監査役報酬は、監査役が株主の負託を受けた独立機関として取締役の職務執行に対する監査の職責を負っていることから、企業業績とは連動させず、監査役会による協議に基づき決定しております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	賞 与	ストック オプション	
取締役(社外取締役を除く)	71,000	65,640	5,360	-	7
監査役(社外監査役を除く)	-	-	-	-	-
社外役員	9,100	8,300	800	-	4

役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

使用人兼務役員の使用人給与のうち重要なもの

該当事項ありません。

## (5) 【株式の保有状況】

該当事項はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

- (1) 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前事業年度(2018年3月1日から2019年2月28日まで)及び当事業年度(2019年3月1日から2020年2月29日まで)の財務諸表について、Moore至誠監査法人により監査を受けております。なお、従来、当社が監査証明を受けているMoore至誠監査法人は2020年1月1日に至誠清新監査法人より名称を変更となりました。
- (2) 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当中間会計期間(2020年3月1日から2020年8月31日まで)の中間財務諸表について、Moore至誠監査法人により中間監査を受けております。

### 3 連結財務諸表について

- (1) 当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。
- (2) 当社は子会社がありませんので、中間連結財務諸表を作成しておりません。



## 1 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	240,709	410,273
売掛金	433,094	503,627
商品	41,054	27,250
貯蔵品	2,953	3,259
前払費用	10,646	16,007
その他	1,156	701
貸倒引当金	1,070	30
流動資産合計	728,545	961,089
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2 123,421	2 114,047
車両運搬具（純額）	3,277	3,874
工具、器具及び備品（純額）	4,040	2,697
土地	2 205,833	2 205,833
有形固定資産合計	1 336,572	1 326,452
無形固定資産		
特許権	64,196	54,060
電話加入権	451	451
ソフトウェア	49,532	45,618
無形固定資産合計	114,180	100,129
投資その他の資産		
長期前払費用	2,983	1,398
繰延税金資産	21,075	21,587
敷金及び保証金	23,936	29,684
破産更生債権等	66	-
その他	30	30
貸倒引当金	66	-
投資その他の資産合計	48,024	52,700
固定資産合計	498,777	479,282
資産合計	1,227,323	1,440,372

(単位:千円)

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	8,519	13,336
短期借入金	3 270,000	-
1年内返済予定の長期借入金	2 14,366	2 54,252
未払費用	270,970	278,492
未払法人税等	27,619	61,944
未払消費税等	19,036	44,884
前受金	1,484	4,510
預り金	5,496	12,261
賞与引当金	5,887	7,681
役員賞与引当金	-	6,160
流動負債合計	623,381	483,525
固定負債		
長期借入金	2 230,290	2 423,533
役員退職慰労引当金	34,046	26,470
その他	5,320	3,352
固定負債合計	269,656	453,355
負債合計	893,038	936,880
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金		
その他資本剰余金	114,450	114,450
資本剰余金合計	114,450	114,450
利益剰余金		
利益準備金	833	1,351
その他利益剰余金		
別途積立金	2,000	2,000
繰越利益剰余金	166,976	335,665
利益剰余金合計	169,810	339,017
株主資本合計	334,260	503,467
新株予約権	23	23
純資産合計	334,284	503,491
負債純資産合計	1,227,323	1,440,372

## 【中間貸借対照表】

(単位：千円)

当中間会計期間  
(2020年8月31日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	1,310,648
売掛金	517,144
商品	26,871
貯蔵品	4,305
前払費用	19,597
その他	148
貸倒引当金	30
流動資産合計	1,878,685
固定資産	
有形固定資産	
建物（純額）	2 109,558
車両運搬具（純額）	4,521
工具、器具及び備品（純額）	2,263
土地	2 167,124
有形固定資産合計	1 283,467
無形固定資産	
特許権	48,991
電話加入権	451
ソフトウェア	40,028
ソフトウェア仮勘定	8,690
無形固定資産合計	98,161
投資その他の資産	
長期前払費用	890
繰延税金資産	21,321
敷金及び保証金	21,744
その他	5,130
投資その他の資産合計	49,086
固定資産合計	430,715
資産合計	2,309,401

(単位:千円)

当中間会計期間  
(2020年8月31日)

負債の部	
流動負債	
買掛金	2,296
短期借入金	3 100,000
1年内返済予定の長期借入金	2 201,624
未払費用	252,227
未払法人税等	43,190
未払消費税等	20,493
前受金	2,181
預り金	11,131
賞与引当金	15,888
流動負債合計	649,032
固定負債	
長期借入金	2 1,046,230
役員退職慰労引当金	31,564
その他	3,352
固定負債合計	1,081,146
負債合計	1,730,178
純資産の部	
株主資本	
資本金	50,000
資本剰余金	
その他資本剰余金	114,450
資本剰余金合計	114,450
利益剰余金	
利益準備金	2,213
その他利益剰余金	
別途積立金	2,000
繰越利益剰余金	410,533
利益剰余金合計	414,747
株主資本合計	579,198
新株予約権	23
純資産合計	579,222
負債純資産合計	2,309,401

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
売上高	2,835,351	3,643,856
売上原価	2,135,342	2,669,168
売上総利益	700,009	974,688
販売費及び一般管理費	<sup>1</sup> 605,685	<sup>1</sup> 718,876
営業利益	94,323	255,811
営業外収益		
受取利息	183	69
預り保証金精算益	347	605
その他	649	1,232
営業外収益合計	1,180	1,907
営業外費用		
支払利息	1,975	4,059
その他	487	-
営業外費用合計	2,462	4,059
経常利益	93,041	253,659
特別損失		
減損損失	<sup>2</sup> 10,563	-
特別損失合計	10,563	-
税引前当期純利益	82,478	253,659
法人税、住民税及び事業税	35,551	79,790
法人税等調整額	11,422	512
法人税等合計	24,128	79,278
当期純利益	58,349	174,381

## 【売上原価明細書】

区分	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)			当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)		
	金額(千円)		構成比 (%)	金額(千円)		構成比 (%)
商品売上原価						
1 商品期首たな卸高	1,991			41,054		
2 当期商品仕入高	147,260			290,794		
合計	149,252			331,849		
3 商品期末たな卸高	41,054	108,197	5.1	27,250	304,599	11.4
サービス売上原価						
1 労務費	14,045			11,593		
2 外注費	1,677,623			2,089,995		
3 経費	335,476			262,980		
当期総サービス費用	2,027,144	2,027,144	94.9	2,364,569	2,364,569	88.6
売上原価		2,135,342	100.0		2,669,168	100.0

## 【中間損益計算書】

(単位：千円)

当中間会計期間  
(自 2020年3月1日  
至 2020年8月31日)

売上高	1,866,999
売上原価	1,336,386
売上総利益	530,612
販売費及び一般管理費	413,540
営業利益	117,072
営業外収益	
受取利息	10
為替差益	160
その他	894
営業外収益合計	1,064
営業外費用	
支払利息	3,155
営業外費用合計	3,155
経常利益	114,981
特別利益	
固定資産売却益	12,831
特別利益合計	12,831
税引前中間純利益	127,813
法人税、住民税及び事業税	43,191
法人税等調整額	266
法人税等合計	43,457
中間純利益	84,355

【中間売上原価明細書】

区分	当中間会計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)		
	金額(千円)		構成比 (%)
商品売上原価			
1 商品期首たな卸高	27,250		
2 当期商品仕入高	155,975		
合計	183,225		
3 商品期末たな卸高	26,871	156,354	11.7
サービス売上原価			
1 労務費	5,392		
2 外注費	1,040,989		
3 経費	133,650		
当期総サービス費用	1,180,032	1,180,032	88.3
売上原価		1,336,386	100.0



## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

(単位：千円)

	株主資本							株主資本 合計	新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益 準備金	利益剰余金		利益 剰余金 合計			
		その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計		別途 積立金	繰越利益 剰余金				
当期首残高	50,000	114,450	114,450	402	2,000	113,370	115,773	280,223	-	280,223
当期変動額										
剰余金の配当				431		4,743	4,312	4,312		4,312
当期純利益						58,349	58,349	58,349		58,349
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）									23	23
当期変動額合計	-	-	-	431	-	53,605	54,037	54,037	23	54,061
当期末残高	50,000	114,450	114,450	833	2,000	166,976	169,810	334,260	23	334,284

当事業年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

(単位：千円)

	株主資本							株主資本 合計	新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益 準備金	利益剰余金		利益 剰余金 合計			
		その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計		別途 積立金	繰越利益 剰余金				
当期首残高	50,000	114,450	114,450	833	2,000	166,976	169,810	334,260	23	334,284
当期変動額										
剰余金の配当				517		5,692	5,175	5,175		5,175
当期純利益						174,381	174,381	174,381		174,381
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）									-	-
当期変動額合計	-	-	-	517	-	168,689	169,206	169,206	-	169,206
当期末残高	50,000	114,450	114,450	1,351	2,000	335,665	339,017	503,467	23	503,491

## 【中間株主資本等変動計算書】

当中間会計期間(自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)

(単位:千円)

	株主資本							株主資本 合計	新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金						
		その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金		利益 剰余金合計			
					別途 積立金	繰越利益 剰余金				
当期首残高	50,000	114,450	114,450	1,351	2,000	335,665	339,017	503,467	23	503,491
当中間期変動額										
剰余金の配当				862		9,487	8,625	8,625		8,625
中間純利益						84,355	84,355	84,355		84,355
当中間期変動額合計	-	-	-	862	-	74,868	75,730	75,730	-	75,730
当中間期末残高	50,000	114,450	114,450	2,213	2,000	410,533	414,747	579,198	23	579,222

## 【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益	82,478	253,659
減価償却費	36,980	39,604
減損損失	10,563	-
貸倒引当金の増減額（ は減少）	386	1,106
賞与引当金の増減額（ は減少）	1,298	1,794
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	8,894	7,576
役員賞与引当金の増減額（ は減少）	-	6,160
受取利息	183	69
支払利息	1,975	4,059
売上債権の増減額（ は増加）	127,648	70,532
たな卸資産の増減額（ は増加）	39,104	13,497
仕入債務の増減額（ は減少）	4,391	4,817
未払費用の増減額（ は減少）	90,508	7,221
未払消費税等の増減額（ は減少）	18,288	25,847
その他	5,415	2,061
小計	94,244	279,439
利息の受取額	183	69
利息の支払額	2,290	3,791
法人税等の支払額	8,019	45,465
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>84,118</b>	<b>230,252</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	115,689	2,535
無形固定資産の取得による支出	4,446	12,597
敷金及び保証金の差入による支出	1,054	6,021
敷金及び保証金の返還による収入	68	10
その他	837	2,501
投資活動によるキャッシュ・フロー	121,959	18,642
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（ は減少）	60,000	270,000
長期借入れによる収入	120,000	270,000
長期借入金の返済による支出	10,672	36,871
配当金の支払額	4,312	5,175
新株予約権の発行による収入	23	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	165,039	42,046
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	127,198	169,563
現金及び現金同等物の期首残高	113,511	240,709
現金及び現金同等物の期末残高	240,709	410,273

## 【中間キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当中間会計期間  
 (自 2020年3月1日  
 至 2020年8月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前中間純利益	127,813
減価償却費	20,454
賞与引当金の増減額（は減少）	8,206
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	5,094
役員賞与引当金の増減額（は減少）	6,160
受取利息	10
支払利息	3,155
為替差損益（は益）	160
有形固定資産売却損益（は益）	12,831
売上債権の増減額（は増加）	13,516
たな卸資産の増減額（は増加）	666
仕入債務の増減額（は減少）	11,040
未払費用の増減額（は減少）	25,965
未払消費税等の増減額（は減少）	24,390
その他	2,357
小計	67,623
利息の受取額	10
利息の支払額	3,672
法人税等の支払額	61,945
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,015
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	2,118
有形固定資産の売却による収入	48,540
無形固定資産の取得による支出	12,392
敷金及び保証金の差入による支出	42
敷金及び保証金の返還による収入	7,876
その他	5,109
投資活動によるキャッシュ・フロー	36,754
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額（は減少）	100,000
長期借入れによる収入	850,000
長期借入金の返済による支出	79,931
配当金の支払額	8,625
財務活動によるキャッシュ・フロー	861,444
現金及び現金同等物に係る換算差額	160
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	900,375
現金及び現金同等物の期首残高	410,273
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,310,648

**【注記事項】**

(重要な会計方針)

前事業年度（自 2018年3月1日 至 2019年2月28日）

## 1. たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品・貯蔵品

主として総平均法を採用しております。

（貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定）

## 2. 固定資産の減価償却の方法

## (1) 有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	3年～31年
車両運搬具	4年～6年
工具、器具及び備品	5年～20年

## (2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な償却年数は以下のとおりであります。

特許権	8年
ソフトウェア(自社利用分)	5年(社内における利用可能期間)

## (3) 長期前払費用

均等償却によっております。

## 3. 引当金の計上基準

## (1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

## (2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

## (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の計算には、退職給付に係る期末要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

なお、退職給付引当金を2018年2月28日に全額精算し、2018年4月より確定拠出型年金制度を導入しております。

## (4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

## 4. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期的な投資からなっております。

## 5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

当事業年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

## 1．たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品・貯蔵品

主として総平均法を採用しております。

（貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定）

## 2．固定資産の減価償却の方法

### (1) 有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	3年～31年
車両運搬具	4年～6年
工具、器具及び備品	5年～20年

### (2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な償却年数は以下のとおりであります。

特許権	8年
ソフトウェア(自社利用分)	5年(社内における利用可能期間)

### (3) 長期前払費用

均等償却によっております。

## 3．引当金の計上基準

### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

### (2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

### (3) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に備えて、当事業年度に見合う支給見込額に基づき計上しております。

### (4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

## 4．キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期な投資からなっております。

## 5．その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

（未適用の会計基準等）

前事業年度（自 2018年3月1日 至 2019年2月28日）

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2018年3月30日企業会計基準委員会）
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 2018年3月30日企業会計基準委員会）

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

- ステップ1：顧客との契約を識別する。
- ステップ2：契約における履行義務を識別する。
- ステップ3：取引価格を算定する。
- ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。
- ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2023年2月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当財務諸表の作成時において評価中であります。

当事業年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2018年3月30日企業会計基準委員会）
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 2018年3月30日企業会計基準委員会）

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

- ステップ1：顧客との契約を識別する。
- ステップ2：契約における履行義務を識別する。
- ステップ3：取引価格を算定する。
- ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。
- ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2023年2月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当財務諸表の作成時において評価中であります。

（表示方法の変更）

前事業年度（自 2018年3月1日 至 2019年2月28日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

（「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号2018年2月16日）を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」5,670千円は「投資その他の資産」の「繰延税金資産」21,075千円に含めて表示しております。

(貸借対照表関係)

## 1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
有形固定資産の減価償却累計額	34,980千円	47,213千円

## 2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は以下のとおりであります。

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
建物(純額)	114,506千円	106,162千円
土地	139,974千円	139,974千円
計	254,481千円	246,137千円

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
1年内返済予定の長期借入金	14,366千円	15,672千円
長期借入金	230,290千円	214,618千円
計	244,656千円	230,290千円

## 3 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行7行と当座貸越契約を締結しております。

事業年度末における当座貸越契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
当座貸越極度額	750,000千円	750,000千円
借入実行残高	270,000千円	- 千円
差引額	480,000千円	750,000千円



(損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
貸倒引当金繰入額	386千円	1,040千円
役員報酬	73,160 "	73,940 "
給料及び手当	201,760 "	256,852 "
賞与引当金繰入額	5,845 "	7,589 "
役員賞与引当金繰入額	-	6,160 "
役員退職慰労引当金繰入額	8,894 "	6,894 "
減価償却費	14,794 "	15,299 "
おおよその割合		
販売費	1.0%	0.9%
一般管理費	99.0%	99.1%

- 2 減損損失

前事業年度において、当社は以下の資産について減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
千葉県八千代市	貸倉庫	土地及び建物

当社は、主として物件ごとに資産のグルーピングを行っております。

上記資産については、今後の収益計上が見込めないことから帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(10,563千円)として特別損失に計上しました。

その内訳は、建物10,156千円、土地406千円であります。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、正味売却価額は、固定資産税評価額に基づいて自社で算定した金額により評価しております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	172,500	-	-	172,500

## 2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

## 3. 新株予約権に関する事項

新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当事業年度末残高(千円)
		当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末	
第2回新株予約権(注)1、2、3	普通株式	-	23,950	-	23,950	23
合計		-	23,950	-	23,950	23

(注) 1. 目的となる株式の数は、新株予約権が権利行使されたものと仮定した場合における株式数を記載しております。

2. 目的となる株式の数の変動事由の概要

第2回新株予約権の増加は、新株予約権の発行によるものであります。

3. 第2回新株予約権は、権利行使期間の初日が到来していません。

## 4. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年5月23日 定時株主総会	普通株式	4,312	25	2018年2月28日	2018年5月24日

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年5月22日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	5,175	30	2019年2月28日	2019年5月23日

当事業年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	172,500	-	-	172,500

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権に関する事項

新株予約権の内訳	新株予約権の目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当事業年度末残高(千円)
		当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末	
第2回新株予約権(注)1、2	普通株式	23,950	-	-	23,950	23
合計		23,950	-	-	23,950	23

(注) 1. 目的となる株式の数は、新株予約権が権利行使されたものと仮定した場合における株式数を記載してあります。

2. 第2回新株予約権は、権利行使期間の初日が到来していません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年5月22日 定時株主総会	普通株式	5,175	30	2019年2月28日	2019年5月23日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年5月20日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	8,625	50	2020年2月29日	2020年5月21日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に記載されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
現金及び預金	240,709千円	410,273千円
現金及び現金同等物	240,709千円	410,273千円

## (金融商品関係)

前事業年度（自 2018年3月1日 至 2019年2月28日）

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、経営会議で策定された資金繰り計画に照らして、適宜必要な資金(主に銀行借入)を調達しております。一時的な余資は、安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。また、デリバティブ取引に関しては行わない方針であります。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金等は、顧客の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金等は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日であります。借入金については、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で19年後であります。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

営業債権である売掛金等は、担当者が所定の手続に従い、債権回収の状況を定期的にモニタリングして、支払遅延の早期把握や回収リスクの軽減を図っております。

特に金額等の重要性が高い取引については、経営会議において、当該取引実行の決定や回収状況の報告が行われております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

営業債務及び借入金については、月次単位での支払予定を把握するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

## (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません((注2)を参照ください。)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	240,709	240,709	-
(2) 売掛金	433,094	433,094	0
資産計	673,804	673,804	0
(1) 買掛金	8,519	8,519	-
(2) 短期借入金	270,000	270,000	-
(3) 未払費用	270,970	270,970	-
(4) 未払法人税等	27,619	27,619	-
(5) 未払消費税等	19,036	19,036	-
(6) 長期借入金( )	244,656	246,734	2,078
負債計	840,802	842,881	2,078

## (注1)金融商品の時価の算定方法に関する事項

## 資 産

## (1) 現金及び預金、並びに(2) 売掛金

割賦売掛金を除き、これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

割賦売掛金については、決済が長期間に亘る債権であるため、元利金の合計額を新規に同様の契約を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

## 負 債

## (1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払費用、(4) 未払法人税等、並びに(5) 未払消費税等

これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (6) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

## (注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	2019年2月28日
敷金及び保証金	23,936

これらについては、市場価格がなく、かつ、入居から退去までの実質的な預託期間を算定することは困難であることから、合理的なキャッシュ・フローを見積ることが極めて困難と認められるため、時価開示の対象としておりません。

## (注3)金銭債権の決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	240,709	-	-	-
売掛金	432,069	1,025	-	-
合計	672,778	1,025	-	-

## (注4)長期借入金及びその他の有利子負債の決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	270,000	-	-	-	-	-
長期借入金	14,366	15,672	16,978	15,672	15,672	166,296
合計	284,366	15,672	16,978	15,672	15,672	166,296

当事業年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、経営会議で策定された資金繰り計画に照らして、適宜必要な資金(主に銀行借入)を調達しております。一時的な余資は、安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。また、デリバティブ取引に関しては行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金等は、顧客の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金等は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日であります。借入金については、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で18年後であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

営業債権である売掛金等は、担当者が所定の手続に従い、債権回収の状況を定期的にモニタリングして、支払遅延の早期把握や回収リスクの軽減を図っております。

特に金額等の重要性が高い取引については、経営会議において、当該取引実行の決定や回収状況の報告が行われております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

営業債務及び借入金については、月次単位での支払予定を把握するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(5) 信用リスクの集中

当期の貸借対照表日現在における営業債権のうち43.5%が特定の大口顧客に対するものであります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません((注2)を参照ください。)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	410,273	410,273	-
(2) 売掛金	503,627	503,627	-
資産計	913,900	913,900	-
(1) 買掛金	13,336	13,336	-
(3) 未払費用	278,492	278,492	-
(4) 未払法人税等	61,944	61,944	-
(5) 未払消費税等	44,884	44,884	-
(6) 長期借入金( )	477,785	481,540	3,755
負債計	876,443	880,198	3,755

( ) 1年内返済予定の長期借入金を含んでおります。

(注1)金融商品の時価の算定方法に関する事項

#### 資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 売掛金

これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

#### 負 債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払費用、(4) 未払法人税等、並びに(5) 未払消費税等

これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(6) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	2020年2月29日
敷金及び保証金	29,684

これらについては、市場価格がなく、かつ、入居から退去までの実質的な預託期間を算定することは困難であることから、合理的なキャッシュ・フローを見積ることが極めて困難と認められるため、時価開示の対象としておりません。

(注3)金銭債権の決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	410,273	-	-	-
売掛金	503,627	-	-	-
合計	913,900	-	-	-

(注4)長期借入金の決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	54,252	58,773	54,252	54,252	54,252	202,004
合計	54,252	58,773	54,252	54,252	54,252	202,004

## (退職給付関係)

前事業年度（自 2018年3月1日 至 2019年2月28日）

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出年金制度を採用しております。

当社は、2018年4月に退職一時金制度を確定給付制度から確定拠出年金制度へ移行しました。

## 2. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度5,916千円であります。

当事業年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出年金制度を採用しております。

当社は、2018年4月に退職一時金制度を確定給付制度から確定拠出年金制度へ移行しました。

## 2. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、当事業年度7,809千円であります。

## (ストック・オプション等関係)

前事業年度（自 2018年3月1日 至 2019年2月28日）

## (追加情報)

「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号2018年1月12日。以下「実務対応報告第36号」という。)の適用日より前に従業員に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、実務対応報告第36号第10項(3)に基づいて、従来採用していた会計処理を継続しております。

## 1. 業績条件付き有償新株予約権の概要

## (1) 業績条件付き有償新株予約権の内容

	2018年 有償新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社取締役6名 監査役1名 当社従業員52名
株式の種類別のストック・オプションの数(注1)	普通株式 23,950株
付与日	2018年3月23日
権利確定条件	(注2)
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません
権利行使期間	2021年6月1日～2028年3月22日

(注1) 株式数に換算して記載しております。

(注2) (a)2021年2月期から2025年2月期のいずれかの事業年度における経常利益が200百万円を超過した場合  
割り当てられた本新株予約権の50%

(b)2021年2月期から2025年2月期のいずれかの事業年度における経常利益が300百万円を超過した場合  
割り当てられた本新株予約権の100%



## (2) 権利確定条件付き有償新株予約権の規模及びその変動状況

前事業年度(2019年2月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

## ストック・オプションの数

	2018年 有償新株予約権
権利確定前(株)	
前事業年度末	-
付与	23,950
失効	-
権利確定	-
未確定残	23,950
権利確定後(株)	
前事業年度末	-
権利確定	-
権利行使	-
失効	-
未行使残	-

## 単価情報

権利行使価格(円)	-
行使時平均株価(円)	-

## 2. 採用している会計処理の概要

(権利確定日以前の会計処理)

(1) 権利確定条件付き有償新株予約権の付与に伴う従業員等からの払込金額を、純資産の部に新株予約権として計上する。

(2) 新株予約権として計上した払込金額は、権利不確定による失効に対する部分を利益として計上する。

(権利確定日後の会計処理)

(3) 権利確定条件付き有償新株予約権が権利行使され、これに対して新株を発行した場合、新株予約権として計上した額のうち、当該権利行使に対する部分を払込資本に振り替える。

(4) 権利不行使による失効が生じた場合、新株予約権として計上した額のうち、当該失効に対応する部分を利益として計上する。この会計処理は、当該失効が確定した期に行う。

当事業年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

(追加情報)

「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号2018年1月12日。以下「実務対応報告第36号」という。)の適用日より前に従業員に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、実務対応報告第36号第10項(3)に基づいて、従来採用していた会計処理を継続しております。

## 1. 業績条件付き有償新株予約権の概要

### (1) 業績条件付き有償新株予約権の内容

	2018年 有償新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社取締役6名 監査役1名 当社従業員52名
株式の種類別のストック・オプションの数(注1)	普通株式 23,950株
付与日	2018年3月23日
権利確定条件	(注2)
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません
権利行使期間	2021年6月1日～2028年3月22日

(注1) 株式数に換算して記載しております。

(注2) (a)2021年2月期から2025年2月期のいずれかの事業年度における経常利益が200百万円を超過した場合  
割り当てられた本新株予約権の50%

(b)2021年2月期から2025年2月期のいずれかの事業年度における経常利益が300百万円を超過した場合  
割り当てられた本新株予約権の100%

## (2) 権利確定条件付き有償新株予約権の規模及びその変動状況

当事業年度(2020年2月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

## ストック・オプションの数

	2018年 有償新株予約権
権利確定前(株)	
前事業年度末	23,950
付与	-
失効	-
権利確定	-
未確定残	23,950
権利確定後(株)	
前事業年度末	-
権利確定	-
権利行使	-
失効	-
未行使残	-

## 単価情報

権利行使価格(円)	-
行使時平均株価(円)	-

## 2. 採用している会計処理の概要

(権利確定日以前の会計処理)

- (1) 権利確定条件付き有償新株予約権の付与に伴う従業員等からの払込金額を、純資産の部に新株予約権として計上する。
- (2) 新株予約権として計上した払込金額は、権利不確定による失効に対する部分を利益として計上する。

(権利確定日後の会計処理)

- (3) 権利確定条件付き有償新株予約権が権利行使され、これに対して新株を発行した場合、新株予約権として計上した額のうち、当該権利行使に対する部分を払込資本に振り替える。
- (4) 権利不行使による失効が生じた場合、新株予約権として計上した額のうち、当該失効に対応する部分を利益として計上する。この会計処理は、当該失効が確定した期に行う。

(税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	(単位：千円)	
	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
繰延税金資産		
賞与引当金	2,017	2,509
役員退職慰労引当金	11,664	8,647
未払社会保険料	297	371
未払事業税	2,759	6,020
未払事業所税	614	586
減損損失	3,618	3,291
その他	121	160
繰延税金資産合計	21,094	21,587
繰延税金負債		
長期前払費用	19	-
繰延税金負債合計	19	-
繰延税金資産純額	21,075	21,587

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
	法定実効税率	34.4%
(調整)		
住民税均等割	2.5%	0.9%
所得拡大促進税制による税額控除	5.8%	4.2%
その他	1.9%	0.1%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.2%	31.1%

## (賃貸等不動産関係)

当社では、埼玉県においてオフィスビル(土地を含む)、埼玉県と千葉県に倉庫、神奈川県にトランクルームを有しております。オフィスビルの一部については、自社のオフィスとして使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

これら賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する貸借対照表計上額、期中増減額並びに決算日における時価及び当該時価の算定方法は以下のとおりであります。

(単位:千円)

		前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
賃貸等不動産	貸借対照表計上額	期首残高	83,708
		期中増減額	101,730
		期末残高	185,438
	期末時価	113,565	132,976
賃貸等不動産として 使用される 部分を含む不動産	貸借対照表計上額	期首残高	144,822
		期中増減額	3,420
		期末残高	141,400
	期末時価	155,732	222,474

(注) 1. 貸借対照表計上額は、取得価額から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 期中増減額のうち、賃貸等不動産の前事業年度の主な増加は、横浜トランクルームの取得(114,006千円)であります。

3. 期末の時価は、主として直近の「固定資産税評価額」に基づいて自社で算定した金額であります。

また、賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する損益は次のとおりであります。

(単位:千円)

		前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
賃貸等不動産	賃貸収益	2,640	8,376
	賃貸費用	4,168	7,897
	差額	1,528	479
	その他(売却損益等)	10,563	-
賃貸等不動産として 使用される 部分を含む不動産	賃貸収益	5,860	9,585
	賃貸費用	25,410	12,804
	差額	19,549	3,219
	その他(売却損益等)	-	-

(注) 賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産には、サービスの提供及び経営管理として当社が使用している部分も含まため、当該部分の賃貸収益は、計上されておりません。なお、当該不動産に係る費用(減価償却費、修繕費、保険料、租税公課等)については、賃貸費用に含まれております。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

当社の事業セグメントは、御用聴き事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	管理会社サポート 事業	インテリア・トータル サポート事業	その他	合計
外部顧客への売上高	1,916,734	903,392	15,225	2,835,351

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	売上高(千円)
株式会社マックスファシリティーズ	479,366
エリアリンク株式会社	405,876

(注) 当社の事業セグメントは、御用聴き事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

当事業年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	管理会社サポート 事業	インテリア・トータル サポート事業	その他	合計
外部顧客への売上高	2,371,644	1,245,125	27,087	3,643,856

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	売上高(千円)
株式会社マックスファシリティーズ	754,892
エリアリンク株式会社	484,513

(注) 当社の事業セグメントは、御用聴き事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度（自2018年3月1日 至 2019年2月28日）

該当事項はありません。

当事業年度（自2019年3月1日 至 2020年2月29日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前事業年度（自2018年3月1日 至 2019年2月28日）

該当事項はありません。

当事業年度（自2019年3月1日 至 2020年2月29日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前事業年度（自2018年3月1日 至 2019年2月28日）

該当事項はありません。

当事業年度（自2019年3月1日 至 2020年2月29日）

該当事項はありません。

## 【関連当事者情報】

前事業年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

## 1. 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と関連当事者との取引

財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

(単位:千円)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
主要株主(個人)が議決権の過半数を所有している会社	株式会社三協運輸サービス	埼玉県越谷市	5,500	一般貨物運送業	なし	関東圏内の配送委託	配送委託料の支払(注2)	263,816	未払費用	25,816
						関東圏内の巡回、商品設置業務委託	巡回、商品設置委託料の支払(注2)	142,479	未払費用	12,241
役員及びその近親者	伊藤 耕昭			個人事業主	なし	当社代表取締役の実弟	管理会社サポート業務料の支払(注3)	12,047	未払費用	1,294

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりませんが、期末残高には含まれております。

2. 取引の都度、交渉して価格を決定しており、支払条件は第三者と比較して同等であります。

3. 管理会社サポート業務料は、独立第三者間取引と同様の一般的な取引条件で行っております。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

当事業年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

## 1. 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と関連当事者との取引

財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

(単位:千円)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
主要株主(個人)が議決権の過半数を所有している会社	株式会社三協運輸サービス	埼玉県越谷市	5,500	一般貨物運送業	なし	関東圏内の配送委託	配送委託料の支払(注2)	308,656	未払費用	26,984
						関東圏内の巡回、商品設置業務委託	巡回、商品設置委託料の支払(注2)	79,127	未払費用	7,881
役員及びその近親者	伊藤 耕昭			個人事業主	なし	当社代表取締役の実弟	管理会社サポート業務料の支払(注3)	11,271	未払費用	1,023

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりませんが、期末残高には含まれております。

2. 取引の都度、交渉して価格を決定しており、支払条件は第三者と比較して同等であります。

3. 管理会社サポート業務料は、独立第三者間取引と同様の一般的な取引条件で行っております。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。



## (1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
1株当たり純資産額	1,937円74銭	2,918円65銭
1株当たり当期純利益	338円25銭	1,010円91銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、新株予約権の残高はありますが、当社株式は売買実績がなく期中平均株価が把握できないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
当期純利益(千円)	58,349	174,381
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益(千円)	58,349	174,381
普通株式の期中平均株式数(株)	172,500	172,500
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	新株予約権1種類(新株予約権の数958個 普通株式23,950株)。 なお、新株予約権の概要は「第二部[企業情報]第4[提出会社の状況]1[株式等の状況](2)[新株予約権等の状況]」に記載の通りであります。	新株予約権1種類(新株予約権の数958個 普通株式23,950株)。 なお、新株予約権の概要は「第二部[企業情報]第4[提出会社の状況]1[株式等の状況](2)[新株予約権等の状況]」に記載の通りであります。

(重要な後発事象)

(多額の資金の借入)

当社は、2020年4月13日開催の取締役会において、以下の通り資金の借入を行う事を決議し、下記の日程に資金の借入を行っております。

- (1) 資金の用途 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響による不測の事態に備えた予備資金
- (2) 借入先の名称 株式会社商工組合中央信用金庫
- (3) 借入金額 100,000千円
- (4) 利率 基準金利 + 0.45%
- (5) 借入実行日 2020年4月15日
- (6) 返済期限 2021年4月14日
- (7) 担保・保証 無担保・無保証

- (1) 資金の用途 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響による不測の事態に備えた予備資金
- (2) 借入先の名称 株式会社三菱UFJ銀行
- (3) 借入金額 100,000千円
- (4) 利率 基準金利 + 0.35%
- (5) 借入実行日 2020年4月24日
- (6) 返済期限 2025年4月24日
- (7) 担保・保証 無担保・無保証

- (1) 資金の用途 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響による不測の事態に備えた予備資金
- (2) 借入先の名称 株式会社足利銀行
- (3) 借入金額 100,000千円
- (4) 利率 0.43%
- (5) 借入実行日 2020年4月30日
- (6) 返済期限 2027年4月30日
- (7) 担保・保証 無担保・無保証

- (1) 資金の用途 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響による不測の事態に備えた予備資金
- (2) 借入先の名称 株式会社みずほ銀行
- (3) 借入金額 100,000千円
- (4) 利率 基準金利 + 0.3%
- (5) 借入実行日 2020年4月30日
- (6) 返済期限 2025年4月30日
- (7) 担保・保証 無担保・無保証

当社は、2020年4月22日開催の臨時取締役会において、以下の通り資金の借入を行う事を決議し、2020年4月23日に資金の借入を行っております。

- (1) 資金の用途 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響による不測の事態に備えた予備資金
- (2) 借入先の名称 株式会社埼玉りそな銀行
- (3) 借入金額 200,000千円
- (4) 利率 0.53%
- (5) 借入実行日 2020年4月23日
- (6) 返済期限 2027年4月23日
- (7) 担保・保証 無担保・無保証

当社は、2020年4月28日開催の臨時取締役会において、以下の通り資金の借入を行う事を決議し、2020年4月30日に資金の借入を行っております。

- (1) 資金の用途 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響による不測の事態に備えた予備資金
- (2) 借入先の名称 株式会社常陽銀行
- (3) 借入金額 100,000千円
- (4) 利率 0.42%
- (5) 借入実行日 2020年4月30日
- (6) 返済期限 2027年4月30日
- (7) 担保・保証 無担保・無保証

当社は、2020年5月12日開催の臨時取締役会において、以下の通り資金の借入を行う事を決議し、2020年5月15日に資金の借入を行っております。

- (1) 資金の用途 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響による不測の事態に備えた予備資金
- (2) 借入先の名称 株式会社武蔵野銀行
- (3) 借入金額 200,000千円
- (4) 利率 0.4%
- (5) 借入実行日 2020年5月15日
- (6) 返済期限 2025年4月30日
- (7) 担保・保証 無担保・無保証

当社は、2020年5月20日開催の臨時取締役会において、以下の通り資金の借入を行う事を決議し、2020年5月22日に資金の借入を行っております。

- (1) 資金の用途 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響による不測の事態に備えた予備資金
- (2) 借入先の名称 株式会社城北信用金庫
- (3) 借入金額 50,000千円
- (4) 利率 0.5%(変動)
- (5) 借入実行日 2020年5月22日
- (6) 返済期限 2025年5月31日
- (7) 担保・保証 無担保・無保証

【注記事項】

(重要な会計方針)

当中間会計期間(自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)

1. たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品・貯蔵品

主として総平均法を採用しております。

(中間貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	3年～31年
車両運搬具	3年～6年
工具、器具及び備品	5年～20年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な償却年数は以下のとおりであります。

特許権	8年
ソフトウェア(自社利用分)	2年～5年(社内における利用可能期間)

(3) 長期前払費用

均等償却によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当中間会計期間に見合う分を計上しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく中間期末要支給額を計上しております。

4. 中間キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期的な投資からなっております。

5. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

## (追加情報)

## 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う経済への影響は今後相当期間続くものと想定し、当社の業績にも短期滞在者、出張者の減少による室内清掃業務の減少等影響はあるものの、その影響は限定的であるとの仮定を置いており、こうした仮定のもと会計上の見積りを行っております。

なお、当該仮定は不確実であり、新型コロナウイルスの感染拡大の状況やその経済への影響が当初の想定より変化した場合には、重要な影響を及ぼす可能性があります。

## (中間貸借対照表関係)

## 1 有形固定資産の減価償却累計額

	当中間会計期間 (2020年8月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	48,785千円

## 2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は以下のとおりであります。

	当中間会計期間 (2020年8月31日)
建物(純額)	101,990千円
土地	139,974 "
計	241,965千円

	当中間会計期間 (2020年8月31日)
1年内返済予定の長期借入金	15,672千円
長期借入金	205,476 "
計	221,148千円

## 3 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行7行と当座貸越契約を締結しております。中間会計期間末における当座貸越契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	当中間会計期間 (2020年8月31日)
当座貸越極度額	750,000千円
借入実行残高	100,000 "
差引額	650,000千円

## (中間損益計算書関係)

減価償却実施額は、次のとおりであります。

	当中間会計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
有形固定資産	6,394千円
無形固定資産	14,060 "

(中間株主資本等変動計算書関係)

当中間会計期間(自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末
普通株式(株)	172,500	-	-	172,500

## 2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

## 3. 新株予約権に関する事項

内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当中間会計期間末残高(千円)
		当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末	
第2回新株予約権(注)1、2	普通株式	23,950	-	-	23,950	23
合計		23,950	-	-	23,950	23

(注)1. 目的となる株式の数は、新株予約権が権利行使されたものと仮定した場合における株式数を記載しております。

2. 第2回新株予約権は、権利行使期間の初日が到来していません。

## 4. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年5月20日 定時株主総会	普通株式	8,625	50	2020年2月29日	2020年5月21日

(2) 基準日が当中間会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(中間キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に記載されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	当中間会計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
現金及び預金	1,310,648千円
現金及び現金同等物	1,310,648千円

## (金融商品関係)

## 金融商品の時価等に関する事項

中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません((注2)を参照ください。)

	中間貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	1,310,648	1,310,648	-
(2) 売掛金	517,144	517,144	-
資産計	1,827,792	1,827,792	-
(1) 買掛金	2,296	2,296	-
(2) 短期借入金	100,000	100,000	-
(3) 未払費用	252,227	252,227	-
(4) 未払法人税等	43,190	43,190	-
(5) 未払消費税等	20,493	20,493	-
(6) 長期借入金( )	1,247,854	1,245,609	2,244
負債計	1,666,061	1,663,817	2,244

( ) 1年内返済予定の長期借入金を含んでおります。

## (注1) 金融商品の時価の算定方法

## 資 産

## (1) 現金及び預金、並びに(2) 売掛金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## 負 債

## (1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払費用、(4) 未払法人税等、並びに(5) 未払消費税等

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (6) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

## (注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の中間貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	2020年8月31日
敷金及び保証金	21,744

これらについては、市場価格がなく、かつ、入居から退去までの実質的な預託期間を算定することは困難であることから、合理的なキャッシュ・フローを見積ることが極めて困難と認められるため、時価開示の対象としておりません。

## (賃貸等不動産関係)

当社では、埼玉県においてオフィスビル、倉庫、神奈川県にトランクルームを有しております。オフィスビルの一部については、自社のオフィスとして使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

これら賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する中間貸借対照表計上額、期中増減額並びに中間決算日における時価及び当該時価の算定方法は以下のとおりであります。

(単位：千円)

			当中間会計期間 (2020年8月31日)
賃貸等不動産	中間貸借対照表計上額	期首残高	179,404
		期中増減額	41,522
		中間期末残高	137,881
	中間期末時価	88,126	
賃貸等不動産として 使用される 部分を含む不動産	中間貸借対照表計上額	期首残高	138,791
		期中増減額	1,507
		中間期末残高	137,283
	中間期末時価	222,474	

(注) 1. 中間貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2. 期中増減額のうち、賃貸等不動産の当中間会計期間における主な減少は、千葉センター貸事務所・倉庫の譲渡(38,708千円)であります。

3. 中間期末の時価は、主として直近の「固定資産税評価額」に基づいて自社で算定した金額であります。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当社の事業セグメントは、御用聴き事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

## 【関連情報】

. 当中間会計期間(自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)

## 1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	管理会社サポート事業	インテリア・トータル サポート事業	その他	合計
外部顧客への売上高	1,291,821	555,307	19,871	1,866,999

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

## (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。



## 3. 主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

顧客の名称又は氏名	売上高
株式会社マックスファシリティーズ	390,602
エリアリンク株式会社	231,646

## 【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

## 【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

## 【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

1株当たり純資産額並びに1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当中間会計期間 (2020年8月31日)
(1) 1株当たり純資産額	3,357円67銭

	当中間会計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
(2) 1株当たり中間純利益金額	489円02銭
(算定上の基礎)	
中間純利益金額(千円)	84,355
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る中間純利益金額(千円)	84,355
普通株式の期中平均株式数(株)	172,500
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり中間純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	新株予約権1種類(新株予約権の数958個 普通株式23,950株)。 なお、新株予約権の概要は「第二部[企業情報]第4[提出会社の状況]1[株式等の状況](2)[新株予約権等の状況]」に記載の通りであります。

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、新株予約権の残高はありますが、当社株式は売買実績がなく期中平均株価が把握できないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	140,003	-	-	140,003	25,956	9,373	114,047
車両運搬具	14,931	2,535	-	17,466	13,592	1,938	3,874
工具、器具及び備品	10,784	-	423	10,361	7,664	1,343	2,697
土地	205,833	-	-	205,833	-	-	205,833
有形固定資産計	371,553	2,535	423	373,665	47,213	12,655	326,452
無形固定資産							
特許権	81,090	-	-	81,090	27,029	10,136	54,060
電話加入権	451	-	-	451	-	-	451
ソフトウェア	84,494	12,897	-	97,391	51,773	16,812	45,618
無形固定資産計	166,035	12,897	-	178,933	78,803	26,948	100,129
長期前払費用	7,539	498	80	7,957	6,559	2,002	1,398

## 【社債明細表】

該当事項はありません。

## 【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	270,000	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	14,366	54,252	0.53	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	-	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	230,290	423,533	0.53	2020年3月1日～ 2038年12月31日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
其他有利子負債	-	-	-	-
合計	514,656	477,785	-	-

(注) 1. 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の貸借対照表日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	58,773	54,252	54,252	54,252

## 【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	1,136	30	66	1,070	30
賞与引当金	5,887	7,681	5,887	-	7,681
役員賞与引当金	-	6,160	-	-	6,160
役員退職慰労引当金	34,046	6,894	14,470	-	26,470

注1. 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

2. 役員退職慰労金規程に基づき、常勤役員の期末退職慰労金に相当する金額を計上しております。

## 【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

## 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	535
預金	
当座預金	25,167
普通預金	384,569
計	409,737
合計	410,273

## 売掛金

## 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
株式会社マックスファシリティーズ	178,363
エリアリンク株式会社	40,623
グッド・コミュニケーション株式会社	25,216
株式会社リブマックス	20,522
株式会社LIXIL物流	19,675
その他	219,226
合計	503,627

## 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} \div \frac{(B)}{366}$
433,094	3,943,454	3,872,921	503,627	88.5	43

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

## 商品

区分	金額(千円)
新品布団	18,923
家具・家電等	7,502
電球	824
合計	27,250

## 貯蔵品

区分	金額(千円)
養生テープ等	2,725
作業服	228
事務用消耗品	306
合計	3,259

## 買掛金

相手先	金額(千円)
よつ葉 榎原洋子	3,764
株式会社MOA	3,335
北海道森林組合連合会	1,477
株式会社西川	1,231
広陽家電販売株式会社	915
その他	2,612
合計	13,336

## 未払費用

相手先	金額(千円)
株式会社三協運輸サービス	34,904
松本寝具株式会社	32,425
株式会社ニッカコーポレーション	13,282
株式会社Right Armサービス	12,074
株式会社エクシブ	5,297
その他	180,508
合計	278,492

## (3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	事業年度末日の翌日から3ヶ月以内
基準日	毎年2月末日
株券の種類	
剰余金の配当の基準日	毎年2月末日 毎年8月31日
1単元の株式数	100株
株式の名義書換え	
取扱場所	東京都千代田区霞が関3丁目2番5号 株式会社アイ・アールジャパン
株主名簿管理人	東京都千代田区霞が関3丁目2番5号 株式会社アイ・アールジャパン
取次所	株式会社アイ・アールジャパン 本店
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	該当事項はありません。
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区霞が関3丁目2番5号 株式会社アイ・アールジャパン
株主名簿管理人	東京都千代田区霞が関3丁目2番5号 株式会社アイ・アールジャパン
取次所	株式会社アイ・アールジャパン 本店
買取手数料	無料
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する。 公告掲載URL <a href="https://www.papanets.co.jp">https://www.papanets.co.jp</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨を定款に定めております。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

取得請求権付株式の取得を請求する権利

株主の有する株式数に応じて募集株式または募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当該事項はありません。

### 第三部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 第四部 【特別情報】

### 第1 【最近の財務諸表】

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

## 1 【貸借対照表】

(単位：千円)

	第21期 (2016年2月29日)	第22期 (2017年2月28日)	第23期 (2018年2月28日)
資産の部			
流動資産			
現金及び預金	116,117	103,456	113,511
売掛金	237,107	287,922	305,445
商品	4,698	6,083	1,991
貯蔵品	4,204	5,874	2,911
前渡金	-	940	-
前払費用	6,167	19,490	14,387
繰延税金資産	1,936	3,900	1,028
1年内回収予定の長期貸付金	17,610	3,216	-
その他	135	1,101	2,092
貸倒引当金	90	1,060	750
流動資産合計	387,886	430,927	440,618
固定資産			
有形固定資産			
建物(純額)	19,411	18,909	2 64,940
車両運搬具(純額)	1,136	3,477	5,205
工具、器具及び備品(純額)	897	2,060	4,881
土地	66,265	66,265	2 166,237
建設仮勘定	-	10,000	-
有形固定資産合計	1 87,709	1 100,713	1 241,265
無形固定資産			
特許権	-	-	74,332
電話加入権	451	451	451
ソフトウェア	7,844	36,376	62,112
ソフトウェア仮勘定	10,000	10,600	-
無形固定資産合計	18,296	47,427	136,895
投資その他の資産			
長期貸付金	-	4,984	-
長期前払費用	1,560	4,779	4,227
繰延税金資産	6,712	7,697	8,624
敷金及び保証金	1,022	14,369	23,160
その他	10	30	30
投資その他の資産合計	9,304	31,860	36,042
固定資産合計	115,310	180,002	414,203
資産合計	503,197	610,929	854,821

(単位：千円)

	第21期 (2016年2月29日)	第22期 (2017年2月28日)	第23期 (2018年2月28日)
<b>負債の部</b>			
<b>流動負債</b>			
買掛金	10,498	6,271	4,265
短期借入金	3 25,000	3 25,000	3 210,000
1年内返済予定の長期借入金	10,012	-	2 9,672
未払費用	211,477	253,489	180,482
未払法人税等	7,450	27,365	1,046
未払消費税等	19,180	12,313	748
前受金	965	655	1,085
預り金	658	3,151	4,259
賞与引当金	3,904	3,209	4,588
その他	838	809	-
流動負債合計	289,984	332,264	416,147
<b>固定負債</b>			
長期借入金	-	-	2 125,656
退職給付引当金	15,862	13,740	-
役員退職慰労引当金	17,965	19,340	25,152
その他	-	-	7,642
固定負債合計	33,827	33,080	158,450
負債合計	323,812	365,345	574,598
<b>純資産の部</b>			
<b>株主資本</b>			
資本金	50,000	50,000	50,000
<b>資本剰余金</b>			
その他資本剰余金	114,450	114,450	114,450
資本剰余金合計	114,450	114,450	114,450
<b>利益剰余金</b>			
利益準備金	-	-	402
<b>その他利益剰余金</b>			
別途積立金	2,000	2,000	2,000
繰越利益剰余金	12,934	79,133	113,370
利益剰余金合計	14,934	81,133	115,773
株主資本合計	179,384	245,583	280,223
純資産合計	179,384	245,583	280,223
負債純資産合計	503,197	610,929	854,821

## 2 【損益計算書】

(単位：千円)

	第21期	第22期	第23期
	(自 2015年3月1日 至 2016年2月29日)	(自 2016年3月1日 至 2017年2月28日)	(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)
売上高	1,503,624	2,057,137	2,296,168
売上原価	1,140,351	1,570,027	1,730,287
売上総利益	363,273	487,110	565,880
販売費及び一般管理費	1 351,326	1 394,017	1 487,891
営業利益	11,946	93,092	77,988
営業外収益			
受取利息	265	293	283
受取手数料	398	1,496	423
預り保証金精算益	-	-	2,929
その他	120	1,030	1,593
営業外収益合計	784	2,821	5,229
営業外費用			
支払利息	347	283	1,719
支払報酬料	-	1,200	21,692
支払手数料	-	-	3,000
その他	6	48	508
営業外費用合計	354	1,532	26,920
経常利益	12,376	94,381	56,297
特別損失			
固定資産除却損	-	42	-
特別損失合計	-	42	-
税引前当期純利益	12,376	94,338	56,297
法人税、住民税及び事業税	7,452	31,089	15,686
法人税等調整額	8,197	2,949	1,945
法人税等合計	744	28,140	17,632
当期純利益	13,121	66,198	38,664

## 3 【株主資本等変動計算書】

第21期(自 2015年3月1日 至 2016年2月29日)

(単位:千円)

	株主資本							純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本 合計	
		その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計	その他利益剰余金		利益 剰余金 合計		
				別途 積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	15,000			2,000	187	1,812	16,812	16,812
当期変動額								
新株の発行	35,000						35,000	35,000
会社分割による増加		65,212	65,212				65,212	65,212
合併による増加		49,238	49,238				49,238	49,238
当期純利益					13,121	13,121	13,121	13,121
当期変動額合計	35,000	114,450	114,450	-	13,121	13,121	162,572	162,572
当期末残高	50,000	114,450	114,450	2,000	12,934	14,934	179,384	179,384

第22期(自 2016年3月1日 至 2017年2月28日)

(単位:千円)

	株主資本							純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本 合計	
		その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計	その他利益剰余金		利益 剰余金 合計		
				別途 積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	50,000	114,450	114,450	2,000	12,934	14,934	179,384	179,384
当期変動額								
当期純利益					66,198	66,198	66,198	66,198
当期変動額合計	-	-	-	-	66,198	66,198	66,198	66,198
当期末残高	50,000	114,450	114,450	2,000	79,133	81,133	245,583	245,583

第23期(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)

	株主資本							純資産 合計	
	資本金	資本剰余金		利益 準備金	その他利益剰余金		利益 剰余金 合計		株主 資本 合計
		その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計		別途 積立金	繰越 利益 剰余金			
当期首残高	50,000	114,450	114,450	-	2,000	79,133	81,133	245,583	245,583
当期変動額									
剰余金の配当				402		4,427	4,025	4,025	4,025
当期純利益						38,664	38,664	38,664	38,664
当期変動額合計	-	-	-	402	-	34,237	34,639	34,639	34,639
当期末残高	50,000	114,450	114,450	402	2,000	113,370	115,773	280,223	280,223

## 【注記事項】

(重要な会計方針)

項目	第21期 (自 2015年3月1日 至 2016年2月29日)	第22期 (自 2016年3月1日 至 2017年2月28日)	第23期 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)
1. たな卸資産の評価基準及び評価方法	商品・貯蔵品 最終仕入原価法を採用しております。(貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)	商品・貯蔵品 同左	商品・貯蔵品 同左
2. 固定資産の減価償却の方法	(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)については、定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 3年～31年 車両運搬具 2年～6年 工具、器具及び備品 4年～5年	(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 3年～31年 車両運搬具 2年～6年 工具、器具及び備品 4年～5年	(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。 なお、主な償却年数は以下のとおりであります。 建物 3年～31年 車両運搬具 2年～6年 工具、器具及び備品 5年～20年
	(2) 無形固定資産 ソフトウェア(自社利用分)について、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。	(2) 無形固定資産 同左	(2) 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、主な償却年数は以下のとおりであります。 特許権 8年 ソフトウェア(自社利用分) 5年(社内における利用可能期間)
	(3) 長期前払費用 均等償却によっております。	(3) 長期前払費用 同左	(3) 長期前払費用 同左

項目	第21期 (自 2015年3月1日 至 2016年2月29日)	第22期 (自 2016年3月1日 至 2017年2月28日)	第23期 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)
3. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。 退職給付引当金及び退職給付費用の計算には、退職給付に係る期末要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 退職給付引当金 同左</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 同左</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。 退職給付引当金及び退職給付費用の計算には、退職給付に係る期末要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。 なお、退職給付引当金を2018年2月28日に全額精算し、2018年4月より確定拠出型年金制度を導入しております。</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 同左</p>
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。	消費税等の会計処理 同左	消費税等の会計処理 同左

## (会計方針の変更)

第21期 (自 2015年3月1日 至 2016年2月29日)	第22期 (自 2016年3月1日 至 2017年2月28日)	第23期 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)
-	法人税法の改正に伴い「平成28年度年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 2016年6月17日)を当事業年度に適用し、2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。 これによる当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響額は軽微であります。	-



## (貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額は次のとおりであります。

	第21期 (2016年2月29日)	第22期 (2017年2月28日)	第23期 (2018年2月28日)
有形固定資産の減価償却累計額	15,153千円	16,860千円	25,161千円

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は以下のとおりであります。

	第21期 (2016年2月29日)	第22期 (2017年2月28日)	第23期 (2018年2月28日)
建物(純額)	- 千円	- 千円	44,849千円
土地	- "	- "	99,972 "
計	- 千円	- 千円	144,822千円

	第21期 (2016年2月29日)	第22期 (2017年2月28日)	第23期 (2018年2月28日)
1年内返済予定の長期借入金	- 千円	- 千円	9,672千円
長期借入金	- "	- "	125,656 "
計	- 千円	- 千円	135,328千円

3 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、第21期は取引銀行4行、第22期は取引銀行5行及び第23期は取引銀行6行と当座貸越契約を締結しております。

事業年度末における当座貸越契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	第21期 (2016年2月29日)	第22期 (2017年2月28日)	第23期 (2018年2月28日)
当座貸越極度額	220,000千円	400,000千円	550,000千円
借入実行残高	25,000 "	25,000 "	210,000 "
差引額	195,000千円	375,000千円	340,000千円

## (損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	第21期 (自 2015年3月1日 至 2016年2月29日)	第22期 (自 2016年3月1日 至 2017年2月28日)	第23期 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)
貸倒引当金繰入額	510千円	1,060千円	310千円
役員報酬	50,880 "	51,120 "	68,400 "
給料及び手当	95,722 "	133,982 "	155,733 "
賞与引当金繰入額	3,559 "	2,996 "	4,538 "
退職給付費用	1,870 "	2,101 "	4,532 "
役員退職慰労引当金繰入額	16,990 "	1,375 "	6,062 "
減価償却費	1,121 "	2,963 "	11,713 "
支払手数料	68,611 "	23,814 "	22,382 "

おおよその割合

販売費	1.2%	1.7%	1.7%
一般管理費	98.8%	98.3%	98.3%

(株主資本等変動計算書関係)

第21期(自 2015年3月1日 至 2016年2月29日)

## 1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	300	275	-	575

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

会社分割による増加 100株

有償第三者割当増資による増加 175株

## 2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

## 3. 新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

## 4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

第22期(自 2016年3月1日 至 2017年2月28日)

## 1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	575	-	-	575

## 2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

## 3. 新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

## 4. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

該当事項はありません。

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2017年4月23日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	4,025	7,000	2017年2月28日	2017年4月24日

第23期(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)

## 1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	575	171,925	-	172,500

(変動事由の概要)

株式分割による増加 171,925株

## 2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

## 3. 新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

## 4. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2017年4月23日 定時株主総会	普通株式	4,025	7,000	2017年2月28日	2017年4月24日

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年5月23日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	4,312	25	2018年2月28日	2018年5月24日

（金融商品関係）

第21期(自 2015年3月1日 至 2016年2月29日)

1．金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、経営会議で策定された資金繰り計画に照らして、適宜必要な資金(主に銀行借入)を調達しております。一時的な余資は、安全性の高い金融資産で運用しております。また、デリバティブ取引に関しては行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権及び長期貸付金は、顧客及び貸付先の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金等は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日であります。借入金については、主に運転資金とすることを目的として調達したものであります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

営業債権及び長期貸付金については、担当者が所定の手続に従い、債権回収の状況を定期的にモニタリングして、支払遅延の早期把握や回収リスクの軽減を図っております。

特に金額等の重要性が高い取引については、経営会議において、当該取引実行の決定や回収状況の報告が行われております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

営業債務及び借入金については、月次単位での支払予定を把握するとともに、手元流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2．金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません((注2)を参照ください。)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	116,117	116,117	-
(2) 売掛金	237,107	237,107	-
(3) 1年内回収予定の長期貸付金	17,610	17,610	-
資産計	370,835	370,835	-
(1) 買掛金	10,498	10,498	-
(2) 短期借入金	25,000	25,000	-
(3) 1年内返済予定の長期借入金	10,012	10,012	-
(4) 未払費用	211,477	211,477	-
(5) 未払法人税等	7,450	7,450	-
(6) 未払消費税等	19,180	19,180	-
負債計	283,618	283,618	-

## (注1)金融商品の時価の算定方法

資 産

## (1) 現金及び預金、(2) 売掛金、並びに(3) 1年内回収予定の長期貸付金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

負 債

## (1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) 1年内返済予定の長期借入金、(4) 未払費用、(5) 未払法人税等、並びに(6) 未払消費税等

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	2016年2月29日
敷金及び保証金	1,022

これらについては、市場価格がなく、かつ、入居から退去までの実質的な預託期間を算定することは困難であることから、合理的なキャッシュ・フローを見積ることが極めて困難と認められるため、時価開示の対象としておりません。

## (注3)金銭債権の決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	116,117	-	-	-
売掛金	237,107	-	-	-
1年内回収予定の長期貸付金	17,610	-	-	-
合計	370,835	-	-	-

## (注4)長期借入金及びその他の有利子負債の決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	25,000	-	-	-	-	-
1年内返済予定の長期借入金	10,012	-	-	-	-	-
合計	35,012	-	-	-	-	-

第22期(自 2016年3月1日 至 2017年2月28日)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

### (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、経営会議で策定された資金繰り計画に照らして、適宜必要な資金(主に銀行借入)を調達しております。一時的な余資は、安全性の高い金融資産で運用しております。また、デリバティブ取引に関しては行わない方針であります。

### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権及び長期貸付金は、顧客及び貸付先の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金等は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日であります。借入金については、主に運転資金とすることを目的として調達したものであります。

### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

営業債権及び長期貸付金については、担当者が所定の手続に従い、債権回収の状況を定期的にモニタリングして、支払遅延の早期把握や回収リスクの軽減を図っております。

特に金額等の重要性が高い取引については、経営会議において、当該取引実行の決定や回収状況の報告が行われております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

営業債務及び借入金については、月次単位での支払予定を把握するとともに、手元流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

### (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません((注2)を参照ください。)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	103,456	103,456	-
(2) 売掛金	287,922	287,922	-
(3) 1年内回収予定の長期貸付金	3,216	3,216	-
(4) 長期貸付金	4,984	4,984	0
資産計	399,580	399,580	0
(1) 買掛金	6,271	6,271	-
(2) 短期借入金	25,000	25,000	-
(3) 未払費用	253,489	253,489	-
(4) 未払法人税等	27,365	27,365	-
(5) 未払消費税等	12,313	12,313	-
負債計	324,439	324,439	-

## (注1)金融商品の時価の算定方法

資 産

## (1) 現金及び預金、(2) 売掛金、並びに(3) 1年内回収予定の長期貸付金

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (4) 長期貸付金

貸付金の時価については、元利金の合計額を新規に同様の貸付を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

負 債

## (1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払費用、(4) 未払法人税等、並びに(5) 未払消費税等

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	2017年2月28日
敷金及び保証金	14,369

これらについては、市場価格がなく、かつ、入居から退去までの実質的な預託期間を算定することは困難であることから、合理的なキャッシュ・フローを見積ることが極めて困難と認められるため、時価開示の対象としておりません。

## (注3)金銭債権の決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	103,456	-	-	-
売掛金	287,922	-	-	-
1年内回収予定の長期貸付金	3,216	-	-	-
長期貸付金	-	4,984	-	-
合計	394,596	4,984	-	-

## (注4)長期借入金及びその他の有利子負債の決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	25,000	-	-	-	-	-
合計	25,000	-	-	-	-	-

第23期(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

### (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、経営会議で策定された資金繰り計画に照らして、適宜必要な資金(主に銀行借入)を調達しております。一時的な余資は、安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。また、デリバティブ取引に関しては行わない方針であります。

### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金等は、顧客の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金等は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日であります。借入金については、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で14年後であります。

### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

営業債権である売掛金等は、担当者が所定の手続に従い、債権回収の状況を定期的にモニタリングして、支払遅延の早期把握や回収リスクの軽減を図っております。

特に金額等の重要性が高い取引については、経営会議において、当該取引実行の決定や回収状況の報告が行われております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

営業債務及び借入金については、月次単位での支払予定を把握するとともに、手元流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

### (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません((注2)を参照ください。)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	113,511	113,511	-
(2) 売掛金	305,445	305,445	0
資産計	418,956	418,956	0
(1) 買掛金	4,265	4,265	-
(2) 短期借入金	210,000	210,000	-
(3) 未払費用	180,482	180,482	-
(4) 未払法人税等	1,046	1,046	-
(5) 未払消費税等	748	748	-
(6) 長期借入金( )	135,328	136,086	758
負債計	531,869	532,627	758

( ) 1年内返済予定の長期借入金を含んでおります。



## (注1)金融商品の時価の算定方法

資 産

## (1) 現金及び預金、並びに(2) 売掛金

割賦売掛金を除き、これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

割賦売掛金については、決済が長期間に亘る債権であるため、元利金の合計額を新規に同様の契約を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

負 債

## (1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払費用、(4) 未払法人税等、並びに(5) 未払消費税等

これらはすべて短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (6) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

## (注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	2018年2月28日
敷金及び保証金	23,160

これらについては、市場価格がなく、かつ、入居から退去までの実質的な預託期間を算定することは困難であることから、合理的なキャッシュ・フローを見積ることが極めて困難と認められるため、時価開示の対象としておりません。

## (注3)金銭債権の決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	113,511	-	-	-
売掛金	301,276	4,169	-	-
合計	414,787	4,169	-	-

## (注4)長期借入金及びその他の有利子負債の決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	210,000	-	-	-	-	-
長期借入金	9,672	8,866	9,672	10,478	9,672	86,968
合計	219,672	8,866	9,672	10,478	9,672	86,968

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、非積立型の確定給付制度を採用しております。

退職一時金制度(非積立型制度であります。)では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

なお、当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

当社は2018年4月に退職一時金制度について確定拠出年金制度へ移行しました。

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

(単位：千円)

	第21期 (自 2015年3月1日 至 2016年2月29日)	第22期 (自 2016年3月1日 至 2017年2月28日)	第23期 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)
退職給付引当金の期首残高	97	15,862	13,740
退職給付費用	2,161	2,343	5,003
転籍に伴う増加額	13,603	1,743	1,507
退職給付の支払額	-	3,775	20,045
転籍に伴う減少額	-	2,432	206
退職給付引当金の期末残高	15,862	13,740	-

(2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

(単位：千円)

	第21期 (自 2015年3月1日 至 2016年2月29日)	第22期 (自 2016年3月1日 至 2017年2月28日)	第23期 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)
非積立型制度の退職給付債務	15,862	13,740	-
貸借対照表に計上された負債と 資産の純額	15,862	13,740	-
退職給付引当金	15,862	13,740	-
貸借対照表に計上された負債と 資産の純額	15,862	13,740	-

(3) 退職給付費用

(単位：千円)

	第21期 (自 2015年3月1日 至 2016年2月29日)	第22期 (自 2016年3月1日 至 2017年2月28日)	第23期 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)
簡便法で計算した退職給付費用	2,161	2,343	5,003

## (税効果会計)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位:千円)

	第21期	第22期	第23期
	(自 2015年3月1日 至 2016年2月29日)	(自 2016年3月1日 至 2017年2月28日)	(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)
繰延税金資産			
退職給付引当金	776	1,323	-
賞与引当金	1,367	1,106	1,582
役員退職慰労引当金	6,154	6,628	8,619
未払社会保険料	202	165	237
未払事業税	626	2,861	-
その他	-	-	23
繰延税金資産合計	9,127	12,085	10,463
繰延税金負債			
長期前払費用	480	487	772
未収事業税	-	-	37
繰延税金負債合計	480	487	810
繰延税金資産純額	8,648	11,598	9,652

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	第21期	第22期	第23期
	(自 2015年3月1日 至 2016年2月29日)	(自 2016年3月1日 至 2017年2月28日)	(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)
法定実効税率	36.6%	35.0%	34.4%
(調整)			
住民税均等割	8.1%	1.2%	2.7%
合併による繰越欠損金の引継ぎ	47.7%	-	-
所得拡大促進税制による税額控除	-	4.6%	3.6%
その他	3.0%	1.8%	2.2%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	6.0%	29.8%	31.3%

(賃貸等不動産関係)

第21期(自 2015年3月1日 至 2016年2月29日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

第22期(自 2016年3月1日 至 2017年2月28日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

第23期(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)

当社では、埼玉県においてオフィスビル(土地を含む)、埼玉県と千葉県に倉庫を有しております。オフィスビルの一部については、自社のオフィスとして使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

これら賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する貸借対照表計上額、期中増減額並びに決算日における時価及び当該時価の算定方法は以下のとおりであります。

(単位:千円)

			(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)
賃貸等不動産	貸借対照表計上額	期首残高	84,496
		期中増減額	787
		期末残高	83,708
	期末時価		72,330
賃等不動産として 使用される 部分を含む不動産	貸借対照表計上額	期首残高	-
		期中増減額	144,822
		期末残高	144,822
	期末時価		222,474

(注) 1. 貸借対照表計上額は、取得価額から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 期中増減額のうち、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産の当事業年度の主な増加は、オフィスビルの取得(147,838千円)であります。

3. 期末の時価は、主として直近の「固定資産税評価額」に基づいて自社で算定した金額であります。

また、賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する損益は次のとおりであります。

(単位:千円)

		(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)
賃貸等不動産	賃貸収益	2,640
	賃貸費用	1,600
	差額	1,039
	その他(売却損益等)	-
賃貸等不動産として 使用される 部分を含む不動産	賃貸収益	20,356
	賃貸費用	20,891
	差額	535
	その他(売却損益等)	-

(注) 賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産には、サービスの提供及び経営管理として当社が使用している部分も含むため、当該部分の賃貸収益は、計上されておりません。なお、当該不動産に係る費用(減価償却費、修繕費、保険料、租税公課等)については、賃貸費用に含まれております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当社の事業セグメントは、御用聴き事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

## 【関連情報】

第21期(自 2015年3月1日 至 2016年2月29日)

## 1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	管理会社サポート 事業	インテリア・トータル サポート事業	その他	合計
外部顧客への売上高	917,572	579,294	6,758	1,503,624

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

## (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	売上高(千円)
株式会社マックスファシリティーズ	241,083
エリアリンク株式会社	138,971

第22期(自 2016年3月1日 至 2017年2月28日)

## 1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	管理会社サポート 事業	インテリア・トータル サポート事業	その他	合計
外部顧客への売上高	1,130,726	907,074	19,337	2,057,137

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

## (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	売上高(千円)
株式会社マックスファシリティーズ	284,879
エリアリンク株式会社	220,001

第23期(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)

## 1. 製品及びサービスごとの情報

(単位:千円)

	管理会社サポート 事業	インテリア・トータル サポート事業	その他	合計
外部顧客への売上高	1,480,670	795,574	19,923	2,296,168

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

## (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	売上高(千円)
エリアリンク株式会社	292,288
株式会社マックスファシリティーズ	291,492

## 【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

## 【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

## 【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

## 【関連当事者情報】

第21期(自 2015年3月1日 至 2016年2月29日)

## 1. 関連当事者取引

財務諸表提出会社と関連当事者との取引

財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

(単位:千円)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高	
主要株主(個人)が議決権の過半数を所有している会社	株式会社三協運輸サービス	埼玉県越谷市	5,500	一般貨物運送業	なし	地方配送の配送受託	配送受託料の受取(注2)	96,813	売掛金	2,694	
							関東圏内の配送委託	配送委託料の支払(注2)	204,894	未払費用	67,244
							関東圏内の巡回、商品設置業務委託	巡回、商品設置委託料の支払(注2)	38,319	未払費用	7,083
							「じゅん君」システムの使用契約締結	「じゅん君」使用料の支払(注2)	48,000	未払費用	8,640
							事務委託	事務委託手数料の支払(注2)	14,400	未払費用	2,592

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりませんが、期末残高には含まれております。

2. 取引の都度、交渉して価格を決定しており、支払条件は第三者と比較して同等であります。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

第22期(自 2016年3月1日 至 2017年2月28日)

## 1. 関連当事者取引

財務諸表提出会社と関連当事者との取引

財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

(単位:千円)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
主要株主(個人)が議決権の過半数を所有している会社	株式会社三協運輸サービス	埼玉県越谷市	5,500	一般貨物運送業	なし	地方配送の配送受託	配送受託料の受取(注2)	19,729	売掛金	4,037
							関東圏内の配送委託	410,132	未払費用	59,744
							巡回、商品設置業務委託	67,554	未払費用	14,972
							「じゅん君」システムの使用契約締結	36,000	未払費用	6,480
	株式会社三協ホールディングス(注5)	埼玉県北葛飾郡松伏町	1,000	主要株主の資産管理会社	(被所有)直接69.6%	経営指導契約の締結	経営指導料の支払(注3)	10,185	未払費用	1,000
役員及びその近親者	伊藤 耕昭			個人事業主	なし	当社代表取締役の実弟	管理会社サポート業務料の支払(注4)	10,954	未払費用	1,185

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりませんが、期末残高には含まれております。

2. 取引の都度、交渉して価格を決定しており、支払条件は第三者と比較して同等であります。

3. 契約上の業務内容を勘案して協議の上、決定しております。なお2017年1月分で取引を解消しております。

4. 管理会社サポート業務料は、独立第三者間取引と同様の一般的な取引条件で行っております。

5. 株式会社三協ホールディングスは2017年3月7日に株式会社花明に商号変更しております。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。



第23期(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)

## 1. 関連当事者取引

財務諸表提出会社と関連当事者との取引

財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

(単位:千円)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
主要株主(個人)が議決権の過半数を所有している会社	株式会社三協運輸サービス	埼玉県越谷市	5,500	一般貨物運送業	なし	関東圏内の配送委託	配送委託料の支払(注2)	240,613	未払費用	21,031
							巡回、商品設置委託料の支払(注2)	136,931	未払費用	11,398
							「じゅん君」システムの使用契約締結(注2)(注3)	4,040	未払費用	-
							「じゅん君」システムの特許権取得(注4)	80,000	特許権	73,333
役員及びその近親者	伊藤 耕昭			個人事業主	なし	当社代表取締役の実弟	管理会社サポート業務料の支払(注5)	11,808	未払費用	591

- (注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりませんが、期末残高には含まれております。
2. 取引の都度、交渉して価格を決定しており、支払条件は第三者と比較して同等であります。
3. 2017年7月26日に、当社と株式会社三協運輸サービスとの間で、「じゅん君」に係る特許権の譲渡契約を締結したことにより、取引を解消しております。
4. 特許権の取得価額については、弁理士の鑑定価格を参考にして、交渉により決定しております。
5. 管理会社サポート業務料は、独立第三者間取引と同様の一般的な取引条件で行っております。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

	第21期 (自 2015年3月1日 至 2016年2月29日)	第22期 (自 2016年3月1日 至 2017年2月28日)	第23期 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)
1株当たり純資産額	1,039.91円	1,423.67円	1,624円48銭
1株当たり当期純利益	105.31円	383.76円	224円14銭

- 注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当社は、2017年9月8日付けで普通株式1株につき普通株式300株の割合で株式分割を行っております。第21期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。
3. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第21期 (自 2015年3月1日 至 2016年2月29日)	第22期 (自 2016年3月1日 至 2017年2月28日)	第23期 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)
当期純利益(千円)	13,121	66,198	38,664
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	13,121	66,198	38,664
普通株式の期中平均株式数(株)	124,590	172,500	172,500

## 第2 【保証会社及び連動子会社の最近の財務諸表又は財務書類】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

2021年1月25日

株式会社パパネッツ

取締役会 御中

Moore至誠監査法人

代表社員

公認会計士

森 脇 淳

業務執行社員

代表社員

公認会計士

梅 澤 慶 介

業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社パパネッツの2018年3月1日から2019年2月28日までの第24期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

**財務諸表に対する経営者の責任**

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

**監査人の責任**

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

**監査意見**

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社パパネッツの2019年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

**利害関係**

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券届出書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2021年1月25日

株式会社パパネッツ

取締役会 御中

Moore至誠監査法人

代表社員

公認会計士

森 脇 淳

業務執行社員

代表社員

公認会計士

梅 澤 慶 介

業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社パパネッツの2019年3月1日から2020年2月29日までの第25期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

**財務諸表に対する経営者の責任**

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

**監査人の責任**

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

**監査意見**

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社パパネッツの2020年2月29日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

**利害関係**

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券届出書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の中間監査報告書

2021年1月25日

株式会社パパネッツ  
取締役会 御中

Moore至誠監査法人

代表社員

公認会計士

森 脇 淳

業務執行社員

代表社員

公認会計士

梅 澤 慶 介

業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社パパネッツの2020年3月1日から2021年2月28日までの第26期事業年度の中間会計期間（2020年3月1日から2020年8月31日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、中間キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

## 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社パパネッツの2020年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間会計期間（2020年3月1日から2020年8月31日まで）の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券届出書提出会社）が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。